
熊谷市

下田町遺跡Ⅲ

大里地区高規格堤防整備事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅲ—

(第1分冊)

2006

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



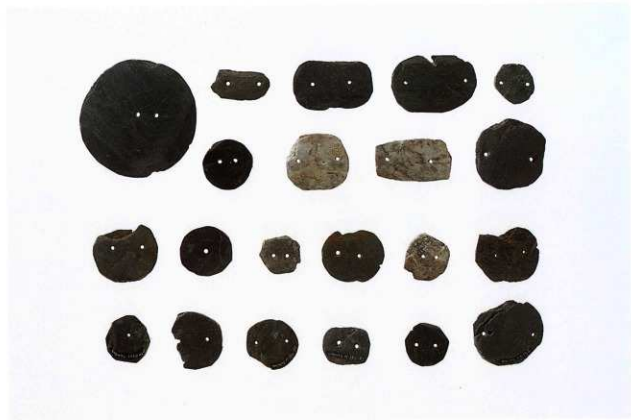
下田町遺跡第4・5次調査区全景（空中写真合成）



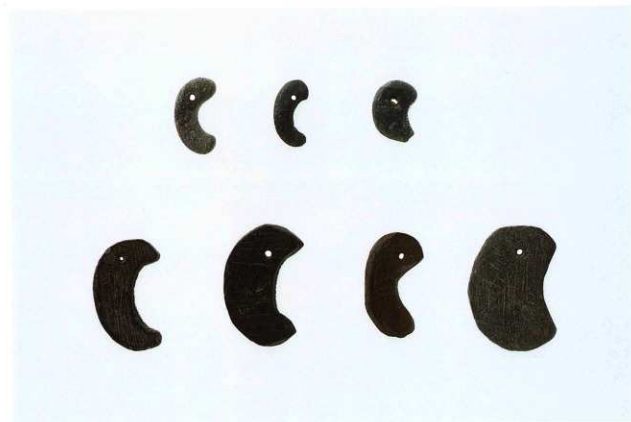
腕輪形石製品



石製模造品（剣形）



石製模造品 (有孔円板)



勾玉・石製模造品 (勾玉形)



子持勾玉 (第315号井戸跡)



壺甕と共伴土器 (第319号井戸跡)

序

国土交通省は、国民が安全に、安心して暮らせる国土の整備と保全に努めています。その一環として、豊かな自然環境と安心して暮らせる“ゆとり、いこい、あそび”のある地域の創出をめざし、新しいまちづくり事業としてスーパー堤防の整備を行っています。現在、建設が進められている熊谷市大里地区の高規格堤防整備事業は、公園整備や汚泥再生処理センターの建設と一体的に行うまちづくり事業であります。

このたびの、整備事業にあたり、予定地が下田町遺跡の範囲内にあることから、その取扱いについて、関係諸機関が慎重に協議を重ねてまいりました。その結果、やむを得ず記録保存の処置を講ずることとなり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）の調整により、当事業団が国土交通省の委託を受けて発掘調査を実施いたしました。

発掘調査の結果、古墳時代前期から、奈良時代、平安時代、そして鎌倉・室町時代に至るまで、多くの遺構と遺物を検出することができました。また、奈良時代の井戸跡からは、黒漆塗り木製壺鐙が当時の状態のままで発見されました。壺鐙は、騎乗の際に足を掛ける道具です。東大寺正倉院に納められている鉄製黒漆塗り壺鐙とかがちがよく似ており、関東地方では初めて、全国でも四例目の発見となります。下田町遺跡に住んでいた有力者が馬に乗り、役所などに赴くときに使用したのでしょうか。

本書は、これらの成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発および各教育機関の参考資料として広く活用していただければ幸いです。

本報告書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課及び旧大里町教育委員会、熊谷市教育委員会をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました国土交通省関東地方整備局並びに地元関係者各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 福田陽充

例言

- 1 本書は、大里郡大里町（現熊谷市）津田に所在する下田町遺跡（第4次調査西区）の発掘調査報告書である。

下田町遺跡では、これまでに以下の報告書を当事業団から刊行している。

下田町遺跡Ⅰ 事業団報告書第296集

下田町遺跡Ⅱ 事業団報告書第301集

- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

下田町遺跡第4次（SMDMT 3）

埼玉県大里郡大里町（現熊谷市）津田1824-1番地

平成15年5月19日付け 教文第2-15号

- 3 発掘調査は大里地区高規格堤防整備事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育委員会が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

- 4 発掘調査事業は、I-3の組織により実施した。調査は、平成15年4月8日から平成16年3月24日まで実施し、瀧瀬芳之、福田 聖、中山浩彦、松岡有希子、安生素明が担当し、松本美佐子の補助を受けた。

整理・報告書作成事業は、平成17年7月1日から平成18年3月24日まで実施し、磯崎 一、赤熊浩一、瀧瀬芳之、中山浩彦が担当し、兵ゆり子、大和田暉の補助を受けた。

- 5 遺跡の基準点測量、空中写真撮影は、㈱シン技術コンサルに委託した。現場における花粉分析、

珪藻分析、プラント・オパール分析は㈱古環境研究所に委託した。また、壺蓋の樹種同定と漆の分析は㈱バリノ・サーヴェイに、保存処理は㈱京都科学に委託した。整理における木製品の樹種同定と獣骨の同定は、㈱バリノ・サーヴェイに委託した。

- 6 発掘調査時の写真撮影は発掘担当者が行い、遺物の写真撮影は大屋道則が行った。
- 7 出土品の整理・図版作成は、磯崎、赤熊、瀧瀬、中山が行い、兵、大和田の補助を受けた。また、石製模造品・石器は西井幸雄が、縄文土器は新屋雅明が、鹿角製品は松岡が行った。
- 8 本書の執筆は、I-1は埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課が行った。I-2・3、III、IV-2・6・9・11、V-3・4は瀧瀬が、II、IV-3・5・7・8・10、V-1は赤熊が、IV-1は中山が、V-2は松岡が行った。
- 9 本書の編集は、赤熊、瀧瀬が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成17年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
- 11 本書の作成にあたり、下記の方々・機関から御教示・御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表します（敬称略）。

浅野晴樹 池田敏宏 出縄康行 岩原 剛
大澤伸啓 太田賢一 大谷晃二 大谷宏治
篠原祐一 白木原宜 相馬和徳 田中 信
西本安秀 北條芳隆 水澤幸一 水口由紀子
熊谷市教育委員会（旧大里町教育委員会）

凡例

1 本書におけるX・Yの数値は、日本測地系(旧測地系)による平面直角座標第IX系(原点:北緯36°00'00"、東経139°50'00")に基づく座標値(m)を示し、各挿図における方位は、すべて座標北を示している。

2 遺跡におけるグリッドは、前記座標系に基づいて設置し、10m×10mを基本グリッドとしている。

3 グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へA、B、C……、南北方向は北から南へ1、2、3……とした。(例 H-34グリッド)

4 本書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は以下のとおりである。

SR 方形周溝墓 SJ 竪穴住居跡
SB 掘立柱建物跡 SE 井戸跡
SK 土坑 SD 溝跡
P・GP ビット(小穴)

5 本書における挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺構図

方形周溝墓 1:80
竪穴住居跡・掘立柱建物跡 1:60
井戸跡・土坑・ビット 1:60
溝跡断面 1:60
火葬土坑 1:30

遺物実測図

木製品(大型) 1:8 1:6
土器・木製品・砥石・石臼 1:4
縄文・土師器拓影図 1:3
土鏝・紡錘車・打製石斧 1:3
石製模造品・玉類・金属製品 1:2
白玉・腕輪形石製品・銭貨 1:1

その他、遺物出土状況詳細図、遺跡位置図、周辺地形図、遺跡全体図等は個別に縮尺率を設定した。

6 遺物のうち、須恵器は断面を黒塗りにした。また、緑釉・灰釉陶器、彩色土器については、施釉・彩色範囲を網かけて示した。

網は、緑釉20%・断面40%、灰釉10%・断面40%、赤彩・赤漆10%、黒色土器・黒漆30%である。

7 木器の木取りについては、断面図に年輪方向を模式的に図示した。ただし、年輪の横断面が断面図にあらわれない場合や、木取りを確認していない木器の断面図は白ぬきである。

8 遺構断面図等に表記した水準数値は、海拔標高を示す。

9 遺構図中、焼土・被熱範囲は黒40%網かけ、炭・灰分布範囲は黒20%網かけ、噴砂はスクリーントーン71/50で示した。

10 遺物観察表については次のとおりである。

・口径・器高・底径はcm、重さはgを単位とする。

・()内の数値は復元推定値、[]内の数値は残存値である。

・胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。

雲:雲母 片:片岩 角:角閃石
長石:長石 石英:石英 軽石:軽石
小石:小石 砂粒:砂粒子
赤粒:赤色粒子 白粒:白色粒子
褐粒:褐色粒子 黒粒:黒色粒子
針:白色針状物質

・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。

・残存率は、破片の場合には、図示した器形の部分に対する割合を示したものもある。

11 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図を使用した。

12 土層および土器類の色調の表記は、『新版標準土色帖』2002年度版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)に従った。

目次

(第1分冊)

口絵
序
例言
凡例
目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査と報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4
II 遺跡の立地と環境	5
III 第4次調査西区の概要	11
IV 第4次調査西区の遺構と遺物	17
1. 方形周溝墓	17
2. 竪穴住居跡	21
(第2分冊)	
3. 掘立柱建物跡	335
4. 井戸跡	340
5. 土坑	388
6. ビット	415
7. 火葬土坑	437

8. 溝跡	443
9. 谷部	475
10. グリッド・表採	479
11. 腕輪形石製品	489
V 調査のまとめ	492
1. 第4次調査西区の遺構変遷	492
2. 第157号住居跡出土の骨角器について	500
3. 腕輪形石製品について	502
4. 第319号井戸跡出土の黒漆塗壺蓋について	507
VI 自然科学分析	515
1. 下田町遺跡における自然科学分析	517
2. 下田町遺跡から出土した壺蓋の分析	531

(写真図版)

写真図版
付図

挿 図 目 次

(第1分冊)

第1図	下田町遺跡調査区分図	3	第35図	第114号住居跡出土遺物(1)	38
第2図	埼玉県の地形	5	第36図	第114号住居跡出土遺物(2)	39
第3図	下田町遺跡の周辺地形	6	第37図	第115号住居跡出土遺物	39
第4図	周辺の遺跡	8	第38図	第115号住居跡	40
第5図	第4次調査西区グリッド配置図	12	第39図	第116号住居跡カマド	40
第6図	第4次調査西区遺跡全体図(1)	13	第40図	第116号住居跡	41
第7図	第4次調査西区遺跡全体図(2)	14	第41図	第116号住居跡出土遺物(1)	42
第8図	第4次調査西区遺跡全体図(3)	15	第42図	第116号住居跡出土遺物(2)	43
第9図	第4次調査西区遺跡全体図(4)	16	第43図	第117・118号住居跡	44
第10図	方形周溝墓全体図	17	第44図	第117号住居跡出土遺物	45
第11図	第10号方形周溝墓	18	第45図	第119号住居跡	45
第12図	第10号方形周溝墓遺物出土状況	19	第46図	第119号住居跡出土遺物	46
第13図	第10号方形周溝墓出土遺物	20	第47図	第121号住居跡	46
第14図	竪穴住居跡・掘立柱建物跡全体図(1)	22	第48図	第122号住居跡P2遺物出土状況	47
第15図	竪穴住居跡・掘立柱建物跡全体図(2)	23	第49図	第122号住居跡	48
第16図	第106号住居跡(1)	24	第50図	第122号住居跡出土遺物	49
第17図	第106号住居跡(2)	25	第51図	第123号住居跡	50
第18図	第106号住居跡カマド	26	第52図	第124号住居跡	51
第19図	第106号住居跡出土遺物	26	第53図	第124号住居跡出土遺物	52
第20図	第107号住居跡	27	第54図	第125号住居跡	53
第21図	第107号住居跡出土遺物	28	第55図	第125号住居跡出土遺物	53
第22図	第108号住居跡	28	第56図	第126号住居跡	54
第23図	第108号住居跡出土遺物	29	第57図	第126号住居跡出土遺物	54
第24図	第109号住居跡出土遺物	29	第58図	第127・129号住居跡(1)	55
第25図	第109号住居跡	30	第59図	第127・129号住居跡(2)	56
第26図	第110号住居跡	31	第60図	第127・129号住居跡出土遺物	57
第27図	第110号住居跡出土遺物	31	第61図	第128号住居跡	58
第28図	第111号住居跡	32	第62図	第128号住居跡出土遺物	58
第29図	第111号住居跡出土遺物	33	第63図	第130号住居跡出土遺物	59
第30図	第113号住居跡	33	第64図	第130号住居跡	60
第31図	第113号住居跡遺物出土状況	34	第65図	第131・152号住居跡	61
第32図	第113号住居跡出土遺物	35	第66図	第131号住居跡出土遺物	62
第33図	第114号住居跡カマド	36	第67図	第132号住居跡	63
第34図	第114号住居跡	37	第68図	第132号住居跡出土遺物	63
			第69図	第133号住居跡	64・65

第70图	第133号住居跡出土遺物	65	第107图	第156号住居跡	94
第71图	第134号住居跡出土遺物	66	第108图	第156号住居跡出土遺物	95
第72图	第134号住居跡	67・68	第109图	第157号住居跡	96
第73图	第135号住居跡出土遺物	68	第110图	第157号住居跡遺物出土狀況	97
第74图	第135号住居跡	69・70	第111图	第157号住居跡出土遺物	98
第75图	第137号住居跡	71	第112图	第158号住居跡	99
第76图	第137号住居跡出土遺物	72	第113图	第158号住居跡出土遺物	99
第77图	第138号住居跡	73	第114图	第159号住居跡	100
第78图	第138号住居跡出土遺物	74	第115图	第159号住居跡出土遺物	101
第79图	第139号住居跡出土遺物	74	第116图	第160号住居跡出土遺物	101
第80图	第139号住居跡	75	第117图	第160・322号住居跡	102・103
第81图	第140号住居跡	76	第118图	第161号住居跡出土遺物	103
第82图	第140号住居跡出土遺物	77	第119图	第161号住居跡	104
第83图	第141号住居跡	77	第120图	第162号住居跡出土遺物	104
第84图	第141号住居跡遺物出土狀況	78	第121图	第164号住居跡出土遺物	105
第85图	第141号住居跡出土遺物	79	第122图	第164号住居跡	106
第86图	第142号住居跡	80	第123图	第165号住居跡	107
第87图	第142号住居跡出土遺物	81	第124图	第166号住居跡	107
第88图	第143号住居跡出土遺物	81	第125图	第167号住居跡出土遺物	108
第89图	第143号住居跡	82	第126图	第167・171号住居跡	108
第90图	第144号住居跡	83	第127图	第171号住居跡遺物出土狀況	109
第91图	第145号住居跡	84	第128图	第168号住居跡出土遺物	109
第92图	第145号住居跡出土遺物	85	第129图	第168号住居跡	110
第93图	第146号住居跡出土遺物	85	第130图	第169号住居跡	110
第94图	第146号住居跡	86・87	第131图	第169号住居跡出土遺物	111
第95图	第147号住居跡出土遺物	87	第132图	第171号住居跡出土遺物	111
第96图	第147・153・154号住居跡	88	第133图	第172号住居跡	112
第97图	第148号住居跡	89	第134图	第173号住居跡	113
第98图	第148号住居跡出土遺物	90	第135图	第173号住居跡出土遺物	114
第99图	第149号住居跡	90	第136图	第174号住居跡	115
第100图	第150・162号住居跡	91	第137图	第174号住居跡出土遺物	116
第101图	第150号住居跡出土遺物	92	第138图	第175~179号住居跡	118・119
第102图	第151号住居跡	92	第139图	第177号住居跡遺物出土狀況	119
第103图	第151号住居跡出土遺物	92	第140图	第175号住居跡遺物出土狀況	120
第104图	第153号住居跡出土遺物	93	第141图	第175号住居跡出土遺物(1)	121
第105图	第154号住居跡出土遺物	93	第142图	第175号住居跡出土遺物(2)	122
第106图	第155号住居跡	94	第143图	第176号住居跡出土遺物	123

第144图	第177号住居跡出土遺物	123	第181图	第200号住居跡	155
第145图	第180、184号住居跡	124	第182图	第201号住居跡	156
第146图	第180号住居跡遺物出土狀況	125	第183图	第201号住居跡出土遺物	157
第147图	第180号住居跡出土遺物(1)	126	第184图	第201、209号住居跡出土遺物	157
第148图	第180号住居跡出土遺物(2)	127	第185图	第202号住居跡	158
第149图	第180号住居跡出土遺物(3)	128	第186图	第202号住居跡出土遺物	159
第150图	第181号住居跡	130	第187图	第203号住居跡出土遺物	159
第151图	第181号住居跡出土遺物	130	第188图	第203号住居跡	159
第152图	第182、183、193号住居跡	131	第189图	第205号住居跡	160
第153图	第182、183号住居跡出土遺物	132	第190图	第205号住居跡出土遺物	161
第154图	第185号住居跡出土遺物	132	第191图	第206号住居跡	162
第155图	第185号住居跡	133	第192图	第206号住居跡出土遺物	163
第156图	第186、226号住居跡	134、135	第193图	第207号住居跡	164
第157图	第186号住居跡出土遺物	136	第194图	第207号住居跡出土遺物	164
第158图	第187、194号住居跡	137、138	第195图	第208号住居跡	165
第159图	第187号住居跡出土遺物	138	第196图	第208号住居跡出土遺物	166
第160图	第188~191、223号住居跡(1)	140	第197图	第209号住居跡	167
第161图	第188~191、223号住居跡(2)	141	第198图	第209号住居跡出土遺物	167
第162图	第188号住居跡出土遺物	142	第199图	第210号住居跡	168
第163图	第189号住居跡出土遺物	143	第200图	第210号住居跡出土遺物	168
第164图	第190号住居跡出土遺物	143	第201图	第211号住居跡(1)	170
第165图	第193号住居跡出土遺物	143	第202图	第211号住居跡(2)	171
第166图	第192、212号住居跡	144	第203图	第211号住居跡出土遺物(1)	171
第167图	第194号住居跡出土遺物	145	第204图	第211号住居跡出土遺物(2)	172
第168图	第195号住居跡出土遺物	145	第205图	第212号住居跡出土遺物	172
第169图	第195号住居跡	146	第206图	第213号住居跡出土遺物	172
第170图	第196号住居跡出土遺物	146	第207图	第214号住居跡出土遺物	173
第171图	第196号住居跡	147	第208图	第213、214号住居跡	174、175
第172图	第197号住居跡	148	第209图	第215号住居跡	175
第173图	第197号住居跡遺物出土狀況	149	第210图	第215号住居跡出土遺物	176
第174图	第197号住居跡出土遺物	150	第211图	第216号住居跡	177
第175图	第198号住居跡	151	第212图	第216号住居跡出土遺物	178
第176图	第198号住居跡出土遺物	151	第213图	第217号住居跡(1)	179
第177图	第199号住居跡	152	第214图	第217号住居跡(2)	180
第178图	第199号住居跡出土遺物	152	第215图	第217号住居跡出土遺物	181
第179图	第199号住居跡遺物出土狀況	153	第216图	第218、222号住居跡	181
第180图	第200号住居跡出土遺物	154	第217图	第218号住居跡出土遺物	182

第218図	第219号住居跡	182	第255図	第245号住居跡	209
第219図	第222号住居跡遺物出土状況	183	第256図	第246号住居跡	210
第220図	第220号住居跡	184	第257図	第246号住居跡出土遺物	210
第221図	第220号住居跡出土遺物	185	第258図	第247号住居跡	211
第222図	第222号住居跡出土遺物	186	第259図	第247号住居跡出土遺物	211
第223図	第223号住居跡出土遺物	187	第260図	第248号住居跡	212
第224図	第224・225号住居跡	188	第261図	第249号住居跡出土遺物	212
第225図	第224号住居跡出土遺物	189	第262図	第249号住居跡	213
第226図	第225号住居跡出土遺物	190	第263図	第250号住居跡	214
第227図	第227号住居跡出土遺物	190	第264図	第250号住居跡出土遺物	215
第228図	第227号住居跡	191	第265図	第251号住居跡出土遺物	215
第229図	第229・244号住居跡	192	第266図	第251号住居跡	216
第230図	第229号住居跡出土遺物	193	第267図	第252号住居跡出土遺物	217
第231図	第230号住居跡出土遺物	193	第268図	第253・254号住居跡	217
第232図	第230・242・243号住居跡	194・195	第269図	第255・256号住居跡	218
第233図	第231号住居跡出土遺物	195	第270図	第255号住居跡出土遺物	219
第234図	第231号住居跡	196	第271図	第257号住居跡	219
第235図	第232・238・252号住居跡	197・198	第272図	第258号住居跡出土遺物	220
第236図	第234号住居跡カマド	198	第273図	第258号住居跡	221
第237図	第233・239号住居跡	199	第274図	第259号住居跡	222
第238図	第234号住居跡	200	第275図	第259号住居跡カマド	223
第239図	第234号住居跡出土遺物	201	第276図	第259号住居跡出土遺物	223
第240図	第234・235号住居跡出土遺物	201	第277図	第260号住居跡(1)	224
第241図	第235号住居跡	202	第278図	第260号住居跡出土遺物	225
第242図	第235号住居跡出土遺物	203	第279図	第260号住居跡(2)	225
第243図	第236号住居跡出土遺物	203	第280図	第261号住居跡出土遺物	226
第244図	第236号住居跡	204	第281図	第261号住居跡	227
第245図	第237号住居跡	205	第282図	第262号住居跡出土遺物	228
第246図	第237号住居跡出土遺物	205	第283図	第262・263号住居跡	228
第247図	第238号住居跡出土遺物	205	第284図	第264号住居跡	229
第248図	第239号住居跡出土遺物	206	第285図	第264号住居跡出土遺物	230
第249図	第240号住居跡	207	第286図	第265号住居跡出土遺物	230
第250図	第240号住居跡出土遺物	207	第287図	第265号住居跡	231
第251図	第241号住居跡	208	第288図	第266号住居跡	232
第252図	第243号住居跡出土遺物	208	第289図	第267・268号住居跡	232
第253図	第244号住居跡出土遺物	209	第290図	第268号住居跡出土遺物	232
第254図	第245号住居跡出土遺物	209	第291図	第269号住居跡	233

第292図	第269号住居跡出土遺物	233	第329図	第288号住居跡出土遺物	257
第293図	第270号住居跡出土遺物	233	第330図	第288号住居跡	258
第294図	第270号住居跡	234	第331図	第289号住居跡	259
第295図	第271号住居跡出土遺物	234	第332図	第289号住居跡出土遺物	259
第296図	第271号住居跡	235	第333図	第290号住居跡	260・261
第297図	第272号住居跡	236	第334図	第290号住居跡出土遺物	261
第298図	第272号住居跡出土遺物	236	第335図	第291号住居跡出土遺物	262
第299図	第273号住居跡	237	第336図	第291号住居跡	262
第300図	第273号住居跡出土遺物	237	第337図	第292号住居跡出土遺物	263
第301図	第274号住居跡	238	第338図	第292号住居跡	264
第302図	第274号住居跡出土遺物	238	第339図	第293号住居跡出土遺物	265
第303図	第275号住居跡	239	第340図	第293号住居跡	265
第304図	第275号住居跡出土遺物	240	第341図	第294・303・305号住居跡(1)	266
第305図	第276号住居跡	240	第342図	第294・303・305号住居跡(2)	267
第306図	第276号住居跡出土遺物	240	第343図	第294号住居跡出土遺物	268
第307図	第277号住居跡カマド	241	第344図	第295号住居跡	268
第308図	第277号住居跡出土遺物	241	第345図	第295号住居跡遺物出土状況	269
第309図	第278号住居跡	242	第346図	第295号住居跡出土遺物	270
第310図	第278号住居跡出土遺物	243	第347図	第296号住居跡	271・272
第311図	第279号住居跡	244	第348図	第296号住居跡出土遺物	272
第312図	第279号住居跡出土遺物	245	第349図	第297号住居跡	273
第313図	第280号住居跡	246	第350図	第297号住居跡出土遺物	274
第314図	第280号住居跡出土遺物	247	第351図	第298号住居跡	275
第315図	第281号住居跡	248	第352図	第298号住居跡遺物出土状況	276
第316図	第281号住居跡出土遺物	249	第353図	第298号住居跡出土遺物(1)	277
第317図	第282号住居跡出土遺物	249	第354図	第298号住居跡出土遺物(2)	278
第318図	第282号住居跡	250	第355図	第299号住居跡出土遺物	278
第319図	第283号住居跡	251	第356図	第299号住居跡	279
第320図	第283号住居跡出土遺物	252	第357図	第300号住居跡出土遺物	279
第321図	第284号住居跡出土遺物	252	第358図	第300号住居跡	280
第322図	第284号住居跡	253	第359図	第301号住居跡	281
第323図	第285号住居跡	254	第360図	第302号住居跡出土遺物	281
第324図	第285号住居跡出土遺物	254	第361図	第302・312・313号住居跡	282
第325図	第286号住居跡	254	第362図	第304号住居跡	283
第326図	第286号住居跡出土遺物	255	第363図	第304号住居跡出土遺物	284
第327図	第287号住居跡	256	第364図	第305号住居跡出土遺物	284
第328図	第287号住居跡出土遺物	257	第365図	第306号住居跡	285

第366图	第306号住居跡出土遺物	286	第402图	井戸跡 (1)	341
第367图	第307号住居跡出土遺物	286	第403图	井戸跡出土遺物 (1)	342
第368图	第307号住居跡	287	第404图	井戸跡出土遺物 (2)	343
第369图	第308号住居跡出土遺物	288	第405图	井戸跡 (2)	345
第370图	第308号住居跡	288	第406图	井戸跡 (3)	346
第371图	第309号住居跡	289	第407图	井戸跡出土遺物 (3)	347
第372图	第309号住居跡出土遺物	290	第408图	井戸跡出土遺物 (4)	348
第373图	第310号住居跡出土遺物	290	第409图	井戸跡出土遺物 (5)	349
第374图	第310号住居跡	291	第410图	井戸跡 (4)	352
第375图	第311号住居跡出土遺物	291	第411图	井戸跡 (5)	353
第376图	第311号住居跡	292	第412图	井戸跡 (6)	354
第377图	第312号住居跡出土遺物	293	第413图	井戸跡出土遺物 (6)	355
第378图	第314号住居跡	294	第414图	井戸跡出土遺物 (7)	356
第379图	第314号住居跡出土遺物	294	第415图	井戸跡出土遺物 (8)	357
第380图	第315号住居跡	295	第416图	井戸跡 (7)	359
第381图	第315号住居跡出土遺物	295	第417图	井戸跡 (8)	360
第382图	第316号住居跡	296	第418图	井戸跡出土遺物 (9)	361
第383图	第316号住居跡出土遺物	297	第419图	井戸跡出土遺物 (10)	362
第384图	第317号住居跡	298	第420图	井戸跡 (9)	364
第385图	第318号住居跡	299	第421图	井戸跡 (10)	365
第386图	第318号住居跡遺物出土状況	300	第422图	井戸跡 (11)	367
第387图	第318号住居跡出土遺物	300	第423图	井戸跡 (12)	368
第388图	第320号住居跡出土遺物	301	第424图	井戸跡 (13)	369
第389图	第319号住居跡	302	第425图	井戸跡 (14)	370
第390图	第320号住居跡 (1)	303	第426图	井戸跡出土遺物 (11)	371
第391图	第320号住居跡 (2)	304	第427图	井戸跡 (15)	373
第392图	第321号住居跡出土遺物	304	第428图	井戸跡 (16)	374
第393图	第321号住居跡	305	第429图	井戸跡 (17)	376
第394图	第322号住居跡出土遺物	306	第430图	井戸跡 (18)	377
第395图	第323号住居跡	307	第431图	井戸跡 (19)	379
第396图	第323号住居跡出土遺物	307	第432图	井戸跡出土遺物 (12)	380
(第2分冊)			第433图	井戸跡出土遺物 (13)	381
第397图	第50号掘立柱建物跡	336	第434图	土坑全体图 (1)	386
第398图	第51号掘立柱建物跡	337	第435图	土坑全体图 (2)	387
第399图	掘立柱建物跡出土遺物	337	第436图	土坑 (1)	390
第400图	井戸跡全体图 (1)	338	第437图	土坑 (2)	391
第401图	井戸跡全体图 (2)	339	第438图	土坑 (3)	393

第439図	土坑 (4)	395	第476図	溝跡土層断面図 (2)	448
第440図	土坑出土遺物 (1)	396	第477図	第585号溝跡遺物出土状況	449
第441図	土坑 (5)	398	第478図	溝跡出土遺物 (1)	451
第442図	土坑 (6)	399	第479図	溝跡出土遺物 (2)	452
第443図	土坑 (7)	402	第480図	溝跡出土遺物 (3)	453
第444図	土坑 (8)	403	第481図	溝跡出土遺物 (4)	454
第445図	土坑 (9)	404	第482図	溝跡 (2)	455
第446図	土坑出土遺物 (2)	405	第483図	溝跡土層断面図 (3)	456
第447図	土坑 (10)	408	第484図	第591号溝跡遺物出土状況	457
第448図	土坑 (11)	409	第485図	溝跡出土遺物 (5)	461
第449図	土坑 (12)	411	第486図	溝跡 (3)	462
第450図	土坑 (13)	412	第487図	溝跡土層断面図 (4)	463
第451図	土坑出土遺物 (3)	413	第488図	溝跡出土遺物 (6)	464
第452図	ビット全体図 (1)	421	第489図	溝跡出土遺物 (7)	466
第453図	ビット全体図 (2)	422	第490図	溝跡 (4)	470
第454図	ビット全体図 (3)	423	第491図	溝跡土層断面図 (5)	471
第455図	ビット全体図 (4)	424	第492図	谷部全体図	475
第456図	ビット全体図 (5)	425	第493図	谷部土層断面図 (1)	476
第457図	ビット全体図 (6)	426	第494図	谷部土層断面図 (2)	477
第458図	ビット全体図 (7)	427	第495図	谷部出土遺物	478
第459図	ビット全体図 (8)	428	第496図	グリッド・表採出土遺物 (1)	480
第460図	ビット (1)	429	第497図	グリッド・表採出土遺物 (2)	481
第461図	ビット (2)	430	第498図	グリッド・表採出土遺物 (3)	482
第462図	ビット (3)	431	第499図	グリッド・表採出土遺物 (4)	483
第463図	ビット (4)	432	第500図	グリッド・表採出土遺物 (5)	484
第464図	ビット (5)	433	第501図	グリッド・表採出土遺物 (6)	485
第465図	ビット出土遺物 (1)	435	第502図	グリッド・表採出土遺物 (7)	486
第466図	ビット出土遺物 (2)	436	第503図	腕輪形石製品出土地点	489
第467図	火葬土坑全体図 (1)	438	第504図	腕輪形石製品A	490
第468図	火葬土坑全体図 (2)	439	第505図	腕輪形石製品B	491
第469図	第31・32号火葬土坑	440	第506図	遺構変遷図 (1)	493
第470図	第33・34号火葬土坑	441	第507図	遺構変遷図 (2)	493
第471図	第35号火葬土坑	442	第508図	遺構変遷図 (3)	495
第472図	溝跡全体図 (1)	444	第509図	遺構変遷図 (4)	495
第473図	溝跡全体図 (2)	445	第510図	遺構変遷図 (5)	496
第474図	溝跡 (1)	446	第511図	遺構変遷図 (6)	496
第475図	溝跡土層断面図 (1)	447	第512図	遺構変遷図 (7)	497

第513図	出土遺物編年図 (1) ……………	498	第518図	古墳時代前期の遺構と腕輪形石製品の出土地点 ……	505
第514図	出土遺物編年図 (2) ……………	499	第519図	壺鏡の各部名称 ……………	507
第515図	刻骨の出土事例 ……………	500	第520図	壺鏡の類例 ……………	509
第516図	腕輪形石製品の類例 ……………	502	第521図	馬具を出土した井戸跡例 ……………	510
第517図	埼玉県の腕輪形石製品及び未製品 ……	503			

表 目 次

(第1分冊)

第1表	周辺遺跡一覧表	9
第2表	第10号方形周溝墓出土遺物観察表	20
第3表	竪穴住居跡出土遺物観察表(1)	308
第4表	竪穴住居跡出土遺物観察表(2)	309
第5表	竪穴住居跡出土遺物観察表(3)	310
第6表	竪穴住居跡出土遺物観察表(4)	311
第7表	竪穴住居跡出土遺物観察表(5)	312
第8表	竪穴住居跡出土遺物観察表(6)	313
第9表	竪穴住居跡出土遺物観察表(7)	314
第10表	竪穴住居跡出土遺物観察表(8)	315
第11表	竪穴住居跡出土遺物観察表(9)	316
第12表	竪穴住居跡出土遺物観察表(10)	317
第13表	竪穴住居跡出土遺物観察表(11)	318
第14表	竪穴住居跡出土遺物観察表(12)	319
第15表	竪穴住居跡出土遺物観察表(13)	320
第16表	竪穴住居跡出土遺物観察表(14)	321
第17表	竪穴住居跡出土遺物観察表(15)	322
第18表	竪穴住居跡出土遺物観察表(16)	323
第19表	竪穴住居跡出土遺物観察表(17)	324
第20表	竪穴住居跡出土遺物観察表(18)	325
第21表	竪穴住居跡出土遺物観察表(19)	326
第22表	竪穴住居跡出土遺物観察表(20)	327
第23表	竪穴住居跡出土遺物観察表(21)	328
第24表	竪穴住居跡出土遺物観察表(22)	329

第25表	竪穴住居跡出土遺物観察表(23)	330
第26表	竪穴住居跡出土遺物観察表(24)	331
第27表	竪穴住居跡出土遺物観察表(25)	332
第28表	竪穴住居跡出土遺物観察表(26)	333
第29表	竪穴住居跡出土遺物観察表(27)	334

(第2分冊)

第30表	掘立柱建物跡出土遺物観察表	337
第31表	井戸跡出土遺物観察表(1)	383
第32表	井戸跡出土遺物観察表(2)	384
第33表	井戸跡出土遺物観察表(3)	385
第34表	土坑出土遺物観察表	414
第35表	ピット一覧表(1)	415
第36表	ピット一覧表(2)	416
第37表	ピット一覧表(3)	417
第38表	ピット一覧表(4)	418
第39表	ピット一覧表(5)	419
第40表	ピット一覧表(6)	420
第41表	ピット出土遺物観察表	436
第42表	溝跡出土遺物観察表(1)	473
第43表	溝跡出土遺物観察表(2)	474
第44表	谷部出土遺物観察表	478
第45表	グリッド・表採出土遺物観察表(1)	479
第46表	グリッド・表採出土遺物観察表(2)	487
第47表	グリッド・表採出土遺物観察表(3)	488
第48表	下田町遺跡時期別住居軒数	497

図版目次

(第1分冊)

- 口絵 1 下田町遺跡第4・5次調査区全景
 2 腕輪形石製品
 石製模造品(劍形)
 3 石製模造品(有孔円板)
 勾玉・石製模造品(勾玉)
 4 子持勾玉(第315号井戸跡)
 壺蓋と同伴土器(第319号井戸跡)

(写真図版)

- 図版1 1 調査区全景(中央遺跡群)
 2 調査区全景(北・南遺跡群)
 図版2 1 調査区全景(東から)
 2 調査区全景(北から)
 図版3 1 調査区北半全景(北から)
 2 調査区南半全景(東から)
 図版4 1 調査区南半全景(南西から)
 2 南側谷部土層断面(Gライン)
 図版5 1 第10号方形周溝墓
 2 第10号方形周溝墓(北側周溝)
 3 第10号方形周溝墓(南側周溝)
 4 第10号方形周溝墓遺物出土状況
 5 第10号方形周溝墓遺物出土状況
 図版6 1 第106号住居跡
 2 第106号住居跡カマド
 図版7 1 第107号住居跡
 2 第108号住居跡
 図版8 1 第109号住居跡
 2 第109号住居跡遺物出土状況
 図版9 1 第110号住居跡
 2 第111号住居跡
 図版10 1 第113号住居跡
 2 第113号住居跡遺物出土状況
 図版11 1 第114号住居跡カマド
 2 第114・142号住居跡
 図版12 1 第142号住居跡ビット3

- 2 第115~119号住居跡
 図版13 1 第116・119号住居跡
 2 第116号住居跡カマド
 3 第116号住居跡貯蔵穴
 4 第122号住居跡カマド
 5 第122号住居跡貯蔵穴
 図版14 1 第117号住居跡
 2 第122号住居跡
 図版15 1 第123号住居跡
 2 第125号住居跡
 図版16 1 第124号住居跡(北半)
 2 第124号住居跡(南半)
 3 第124号住居跡遺物出土状況
 4 第126号住居跡
 5 第128号住居跡カマド
 図版17 1 第127・129号住居跡
 2 第127号住居跡須恵器出土状況
 図版18 1 第127号住居跡勾玉模造品出土状況
 2 第127号住居跡有孔円板出土状況
 3 第130号住居跡炉
 4 第130号住居跡遺物出土状況
 5 第130号住居跡
 図版19 1 第131号住居跡
 2 第132号住居跡
 図版20 1 第133号住居跡
 2 第133号住居跡カマド
 3 第134号住居跡カマド
 4 第134号住居跡貯蔵穴
 5 第134号住居跡遺物出土状況
 図版21 1 第134号住居跡
 2 第135号住居跡
 図版22 1 第137号住居跡(北半)
 2 第137号住居跡(南半)
 図版23 1 第137号住居跡ビット6
 2 第138号住居跡

図版24	1	第138号住居跡遺物出土状況		2	第175~179号住居跡
	2	第139号住居跡遺物出土状況	図版40	1	第175・177号住居跡遺物出土状況
図版25	1	第139号住居跡(北半)		2	第175号住居跡遺物出土状況
	2	第139号住居跡(南半)	図版41	1	第175号住居跡ビット5
図版26	1	第140号住居跡		2	第181~184・193号住居跡
	2	第140号住居跡遺物出土状況	図版42	1	第179号住居跡炉
図版27	1	第141号住居跡		2	第180号住居跡遺物出土状況
	2	第141号住居跡遺物出土状況		3	第180号住居跡遺物出土状況
図版28	1	第143号住居跡		4	第180号住居跡遺物出土状況
	2	第144号住居跡		5	第180~184・193号住居跡
図版29	1	第145・155号住居跡	図版43	1	第186号住居跡
	2	第146号住居跡		2	第186号住居跡遺物出土状況
図版30	1	第147・153・154・166号住居跡		3	第186号住居跡石製模造品出土状況
	2	第149号住居跡		4	第186号住居跡石製品出土状況
図版31	1	第148号住居跡		5	第186号住居跡遺物出土状況
	2	第148号住居跡カマド	図版44	1	第185号住居跡
図版32	1	第150号住居跡		2	第187・194号住居跡
	2	第151号住居跡	図版45	1	第188・190号住居跡
図版33	1	第157号住居跡		2	第188号住居跡カマド
	2	第157号住居跡角製品出土状況	図版46	1	第188・223号住居跡遺物出土状況
	3	第157号住居跡角製品出土状況		2	第195号住居跡
	4	第157号住居跡遺物出土状況	図版47	1	第189号住居跡
	5	第157号住居跡遺物出土状況		2	第189号住居跡カマド
図版34	1	第158・159号住居跡	図版48	1	第197号住居跡遺物出土状況
	2	第158号住居跡ビット1		2	第197号住居跡遺物出土状況
図版35	1	第160号住居跡		3	第197号住居跡遺物出土状況
	2	第160号住居跡遺物出土状況		4	第197号住居跡
図版36	1	第164号住居跡		5	第198号住居跡
	2	第164号住居跡ビット3	図版49	1	第199号住居跡遺物出土状況
図版37	1	第140・165号住居跡		2	第199号住居跡
	2	第169号住居跡		3	第199号住居跡遺物出土状況
図版38	1	第171・174号住居跡		4	第199号住居跡カマド
	2	第171・174号住居跡遺物出土状況		5	第199号住居跡カマド遺物出土状況
	3	第171号住居跡遺物出土状況	図版50	1	第200号住居跡
	4	第174号住居跡遺物出土状況		2	第200号住居跡遺物出土状況
	5	第174号住居跡勾玉出土状況	図版51	1	第200号住居跡滑石出土状況
図版39	1	第173号住居跡		2	第201号住居跡

図版52	1	第201号住居跡鈴車未製品出土状況	5	第239号住居跡貯蔵穴
	2	第202号住居跡	図版68	1 第239号住居跡
図版53	1	第205号住居跡	2	第240号住居跡
	2	第208号住居跡	図版69	1 第245号住居跡
図版54	1	第206・207号住居跡	2	第246号住居跡
	2	第206号住居跡遺物出土状況	図版70	1 第247号住居跡
	3	第206号住居跡遺物出土状況	2	第248号住居跡
	4	第207号住居跡カマド	図版71	1 第249号住居跡
	5	第207号住居跡カマド遺物出土状況	2	第249号住居跡カマド
図版55	1	第209号住居跡	図版72	1 第250号住居跡
	2	第209号住居跡カマド	2	第251号住居跡
図版56	1	第210・228号住居跡	図版73	1 第254号住居跡
	2	第211・216号住居跡	2	第255・256号住居跡
図版57	1	第211号住居跡カマド 1	図版74	1 第258・271号住居跡
	2	第211号住居跡カマド 2	2	第258号住居跡
図版58	1	第213・214・227号住居跡	図版75	1 第259号住居跡
	2	第214号住居跡	2	第259号住居跡カマド
図版59	1	第227号住居跡	図版76	1 第259号住居跡カマド遺物出土状況
	2	第215号住居跡	2	第261号住居跡
図版60	1	第217号住居跡	図版77	1 第260号住居跡
	2	第217号住居跡カマド	2	第260号住居跡カマド
図版61	1	第218・222号住居跡	図版78	1 第264号住居跡
	2	第219号住居跡	2	第262~264・267・268号住居跡
図版62	1	第220号住居跡	図版79	1 第265号住居跡カマド
	2	第224・225号住居跡	2	第266号住居跡
図版63	1	第223号住居跡	図版80	1 第270号住居跡カマド
	2	第223号住居跡遺物出土状況	2	第272号住居跡
図版64	1	第229・244号住居跡	図版81	1 第273号住居跡
	2	第230・242・243号住居跡	2	第273号住居跡貯蔵穴
図版65	1	第231号住居跡	図版82	1 第275号住居跡
	2	第233号住居跡	2	第275号住居跡カマド
図版66	1	第232・238号住居跡	3	第274号住居跡
	2	第238号住居跡ビット 1・2	4	第276号住居跡
図版67	1	第234~236号住居跡	5	第276号住居跡石製模造品出土状況
	2	第234号住居跡カマド	図版83	1 第277号住居跡カマド
	3	第236号住居跡炉	2	第279号住居跡
	4	第236号住居跡遺物出土状況	図版84	1 第278号住居跡

	2	第278号住居跡カマド	図版101	1	第306号住居跡
	3	第278号住居跡貯蔵穴		2	第308号住居跡
	4	第278号住居跡遺物出土状況	図版102	1	第307号住居跡
	5	第278号住居跡石製模造品出土状況		2	第307号住居跡カマド
図版85	1	第280号住居跡	図版103	1	第309・310号住居跡
	2	第280号住居跡カマド		2	第311号住居跡
図版86	1	第281号住居跡	図版104	1	第314号住居跡
	2	第282号住居跡		2	第315号住居跡
図版87	1	第283・287・288号住居跡	図版105	1	第315号住居跡石製模造品出土状況
	2	第287号住居跡内第2号土坑		2	第315号住居跡紡錘車出土状況
図版88	1	第284号住居跡		3	第318号住居跡遺物出土状況
	2	第285号住居跡カマド		4	第318号住居跡ビット5
図版89	1	第289号住居跡		5	第318号住居跡
	2	第289号住居跡カマド	図版106	1	第316号住居跡
図版90	1	第290号住居跡		2	第316号住居跡ビット9
	2	第290号住居跡遺物出土状況	図版107	1	第317号住居跡
図版91	1	第291号住居跡		2	第319号住居跡
	2	第291号住居跡遺物出土状況	図版108	1	第320号住居跡
図版92	1	第292号住居跡		2	第320号住居跡ビット2
	2	第293号住居跡	図版109	1	第320号住居跡ビット3
図版93	1	第294号住居跡		2	第321号住居跡
	2	第295号住居跡	図版110	1	第322号住居跡
図版94	1	第295号住居跡遺物出土状況		2	第322号住居跡遺物出土状況
	2	第296・297号住居跡	図版111	1	第322号住居跡ビット5
図版95	1	第298号住居跡		2	第323号住居跡
	2	第298号住居跡遺物出土状況	図版112	1	第50号掘立柱建物跡
図版96	1	第298号住居跡遺物出土状況		2	第51号掘立柱建物跡
	2	第299号住居跡	図版113	1	第303・307号井戸跡
図版97	1	第300号住居跡		2	第305号井戸跡
	2	第302・312・313号住居跡、第647号溝跡		3	第306号井戸跡
図版98	1	第302号住居跡ビット1		4	第308号井戸跡
	2	第303号住居跡		5	第306号井戸跡井戸枠出土状況
図版99	1	第303号住居跡確認状況	図版114	1	第309号井戸跡
	2	腕輪形石製品出土状況		2	第310号井戸跡
図版100	1	第304号住居跡		3	第313号井戸跡
	2	第305号住居跡		4	第314号井戸跡
				5	第315号井戸跡子持勾玉出土状況

- | | | | | |
|-------|---|------------------|-------|------------------|
| 图版115 | 1 | 第317号井尸跡井戸杵出土状況 | 8 | 第367号井尸跡 |
| | 2 | 第319号井尸跡遺物出土状況 | 图版122 | 1 第368号井尸跡土層断面 |
| 图版116 | 1 | 第318号井尸跡 | 2 | 第368号井尸跡 |
| | 2 | 第319号井尸跡 | 3 | 第369号井尸跡 |
| | 3 | 第320号井尸跡 | 4 | 第370号井尸跡 |
| | 4 | 第321号井尸跡遺物出土状況 | 5 | 第372号井尸跡、第619号土坑 |
| | 5 | 第321号井尸跡 | 6 | 第373号井尸跡 |
| 图版117 | 1 | 第322号井尸跡 | 7 | 第374号井尸跡 |
| | 2 | 第322号井尸跡遺物出土状況 | 8 | 第378号井尸跡 |
| | 3 | 第324号井尸跡 | 图版123 | 1 第381号井尸跡 |
| | 4 | 第326号井尸跡 | 2 | 第383号井尸跡 |
| | 5 | 第327号井尸跡 | 3 | 第384号井尸跡 |
| 图版118 | 1 | 第327号井尸跡漆塗椀出土状況 | 4 | 第384号井尸跡曲物底板出土状況 |
| | 2 | 第328号井尸跡 | 5 | 第385号井尸跡 |
| | 3 | 第329号井尸跡 | 6 | 第386号井尸跡 |
| | 4 | 第333号井尸跡、第587号土坑 | 7 | 第386号井尸跡曲物底板出土状況 |
| | 5 | 第333号井尸跡曲物出土状況 | 8 | 第387号井尸跡 |
| 图版119 | 1 | 第333号井尸跡曲物底板出土状況 | 图版124 | 1 第349号井尸跡 |
| | 2 | 第335号井尸跡 | 2 | 第565号土坑 |
| | 3 | 第337号井尸跡 | 3 | 第566号土坑 |
| | 4 | 第340号井尸跡 | 4 | 第573号土坑 |
| | 5 | 第341・342号井尸跡 | 5 | 第574号土坑 |
| | 6 | 第343号井尸跡 | 6 | 第589号土坑 |
| | 7 | 第344号井尸跡曲物出土状況 | 7 | 第595号土坑 |
| | 8 | 第344号井尸跡木製品出土状況 | 8 | 第596号土坑 |
| 图版120 | 1 | 第347号井尸跡井戸杵出土状況 | 图版125 | 1 第599号土坑 |
| | 2 | 第346号井尸跡 | 2 | 第600号土坑 |
| | 3 | 第348号井尸跡 | 3 | 第601号土坑 |
| | 4 | 第350号井尸跡 | 4 | 第602号土坑 |
| | 5 | 第356号井尸跡 | 5 | 第603号土坑 |
| 图版121 | 1 | 第357号井尸跡漆塗椀出土状況 | 图版126 | 1 第608号土坑 |
| | 2 | 第358・359号井尸跡 | 2 | 第609号土坑 |
| | 3 | 第361号井尸跡 | 3 | 第610号土坑 |
| | 4 | 第363号井尸跡 | 4 | 第611号土坑 |
| | 5 | 第364号井尸跡 | 5 | 第612号土坑 |
| | 6 | 第365号井尸跡 | 6 | 第613号土坑 |
| | 7 | 第366号井尸跡 | 7 | 第617号土坑 |

	8	第620号土坑	図版133	1	第34号火葬土坑検出状況
図版127	1	第621号土坑		2	第34号火葬土坑人骨出土状況
	2	第627号土坑		3	第34号火葬土坑
	3	第628号土坑		4	第35号火葬土坑焚口
	4	第629号土坑		5	第35号火葬土坑人骨出土状況
	5	第630号土坑	図版134	1	第4・585・600・601号溝跡
図版128	1	第632号土坑		2	第585号溝跡
	2	第636号土坑	図版135	1	第585号溝跡遺物出土状況
	3	第637号土坑		2	第585号溝跡遺物出土状況
	4	第638号土坑		3	第585号溝跡遺物出土状況
	5	第639号土坑		4	第586号溝跡遺物出土状況
	6	第640号土坑		5	第586号溝跡
	7	第642号土坑	図版136	1	第591号溝跡
	8	第643号土坑		2	第592号溝跡
図版129	1	第653号土坑遺物出土状況	図版137	1	第621号溝跡
	2	第653号土坑		2	第630号溝跡
	3	第653号土坑遺物出土状況	図版138		第106号住居跡出土遺物
	4	第653号土坑遺物出土状況			第108号住居跡出土遺物
	5	第656号土坑			第110号住居跡出土遺物
図版130	1	F32グリッド ビット5			第111号住居跡出土遺物
	2	G28グリッド ビット1			第113号住居跡出土遺物
	3	G37グリッド ビット15			第114号住居跡出土遺物
	4	H31グリッド ビット1			第116号住居跡出土遺物
	5	I36グリッド ビット1	図版139		第116号住居跡出土遺物
図版131	1	第30号火葬土坑検出状況			第122号住居跡出土遺物
	2	第30号火葬土坑			第124号住居跡出土遺物
	3	第31号火葬土坑検出状況			第128号住居跡出土遺物
	4	第31号火葬土坑人骨出土状況			第134号住居跡出土遺物
	5	第31号火葬土坑			第137号住居跡出土遺物
	6	第32号火葬土坑検出状況			第142号住居跡出土遺物
	7	第32号火葬土坑人骨出土状況			第143号住居跡出土遺物
	8	第32号火葬土坑	図版140		第143号住居跡出土遺物
図版132	1	第33号火葬土坑検出状況			第157号住居跡出土遺物
	2	第33号火葬土坑人骨出土状況			第160号住居跡出土遺物
	3	第33号火葬土坑			第161号住居跡出土遺物
	4	第33号火葬土坑焚口			第174号住居跡出土遺物
	5	第33号火葬土坑人骨出土状況			第175号住居跡出土遺物

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| | 第180号住居跡出土遺物 | | 第299号住居跡出土遺物 |
| 図版141 | 第180号住居跡出土遺物 | | 第302号住居跡出土遺物 |
| 図版142 | 第180号住居跡出土遺物 | 図版149 | 第309号住居跡出土遺物 |
| | 第186号住居跡出土遺物 | | 第318号住居跡出土遺物 |
| | 第188号住居跡出土遺物 | | 第322号住居跡出土遺物 |
| | 第194号住居跡出土遺物 | | 第319号井戸跡出土遺物 |
| | 第196号住居跡出土遺物 | | 第322号井戸跡出土遺物 |
| | 第197号住居跡出土遺物 | | 第324号井戸跡出土遺物 |
| 図版143 | 第199号住居跡出土遺物 | | 第331号井戸跡出土遺物 |
| | 第201・209号住居跡出土遺物 | | 第349号井戸跡出土遺物 |
| | 第208号住居跡出土遺物 | 図版150 | 第596号土坑出土遺物 |
| | 第211号住居跡出土遺物 | | 第627号土坑出土遺物 |
| | 第215号住居跡出土遺物 | | 第656号土坑出土遺物 |
| | 第216号住居跡出土遺物 | | G-28グリッドP1出土遺物 |
| 図版144 | 第217号住居跡出土遺物 | | H-31グリッドP1出土遺物 |
| | 第225号住居跡出土遺物 | | 第592号溝跡出土遺物 |
| 図版145 | 第229号住居跡出土遺物 | | 第599号溝跡出土遺物 |
| | 第239号住居跡出土遺物 | 図版151 | 第621号溝跡出土遺物 |
| | 第244号住居跡出土遺物 | | 谷部出土遺物 |
| | 第247号住居跡出土遺物 | | グリッド・表探遺物 |
| 図版146 | 第251号住居跡出土遺物 | 図版152 | 第10号方形周溝墓出土遺物 |
| | 第260号住居跡出土遺物 | | 第109号住居跡出土遺物 |
| | 第261号住居跡出土遺物 | | 第111号住居跡出土遺物 |
| | 第265号住居跡出土遺物 | | 第113号住居跡出土遺物 |
| | 第272号住居跡出土遺物 | 図版153 | 第113号住居跡出土遺物 |
| | 第275号住居跡出土遺物 | | 第114号住居跡出土遺物 |
| | 第278号住居跡出土遺物 | 図版154 | 第114号住居跡出土遺物 |
| 図版147 | 第280号住居跡出土遺物 | | 第116号住居跡出土遺物 |
| | 第282号住居跡出土遺物 | 図版155 | 第116号住居跡出土遺物 |
| | 第289号住居跡出土遺物 | | 第127・129号住居跡出土遺物 |
| | 第290号住居跡出土遺物 | | 第128号住居跡出土遺物 |
| | 第292号住居跡出土遺物 | 図版156 | 第130号住居跡出土遺物 |
| | 第294号住居跡出土遺物 | | 第131号住居跡出土遺物 |
| | 第295号住居跡出土遺物 | | 第134号住居跡出土遺物 |
| 図版148 | 第295号住居跡出土遺物 | | 第138号住居跡出土遺物 |
| | 第296号住居跡出土遺物 | | 第139号住居跡出土遺物 |
| | 第298号住居跡出土遺物 | | 第141号住居跡出土遺物 |

- 图版157 第141号住居跡出土遺物
第142号住居跡出土遺物
第146号住居跡出土遺物
第150号住居跡出土遺物
第157号住居跡出土遺物
- 图版158 第157号住居跡出土遺物
第158号住居跡出土遺物
第160号住居跡出土遺物
第164号住居跡出土遺物
第171号住居跡出土遺物
- 图版159 第171号住居跡出土遺物
第174号住居跡出土遺物
第175号住居跡出土遺物
第177号住居跡出土遺物
- 图版160 第177号住居跡出土遺物
第180号住居跡出土遺物
- 图版161 第180号住居跡出土遺物
第181号住居跡出土遺物
第186号住居跡出土遺物
- 图版162 第186号住居跡出土遺物
第187号住居跡出土遺物
第188号住居跡出土遺物
第189号住居跡出土遺物
第197号住居跡出土遺物
- 图版163 第197号住居跡出土遺物
第199号住居跡出土遺物
第205号住居跡出土遺物
- 图版164 第205号住居跡出土遺物
第206号住居跡出土遺物
- 图版165 第206号住居跡出土遺物
第209号住居跡出土遺物
第211号住居跡出土遺物
第215号住居跡出土遺物
第216号住居跡出土遺物
- 图版166 第217号住居跡出土遺物
第218号住居跡出土遺物
第223号住居跡出土遺物
- 第224号住居跡出土遺物
- 图版167 第225号住居跡出土遺物
第229号住居跡出土遺物
第231号住居跡出土遺物
- 图版168 第234号住居跡出土遺物
第236号住居跡出土遺物
第239号住居跡出土遺物
- 图版169 第239号住居跡出土遺物
第240号住居跡出土遺物
第247号住居跡出土遺物
第249号住居跡出土遺物
第258号住居跡出土遺物
- 图版170 第259号住居跡出土遺物
第269号住居跡出土遺物
第275号住居跡出土遺物
第279号住居跡出土遺物
- 图版171 第280号住居跡出土遺物
第282号住居跡出土遺物
第283号住居跡出土遺物
第285号住居跡出土遺物
第287号住居跡出土遺物
- 图版172 第287号住居跡出土遺物
第291号住居跡出土遺物
第292号住居跡出土遺物
第293号住居跡出土遺物
第295号住居跡出土遺物
- 图版173 第298号住居跡出土遺物
第309号住居跡出土遺物
- 图版174 第309号住居跡出土遺物
第314号住居跡出土遺物
第316号住居跡出土遺物
第322号住居跡出土遺物
第319号井戸跡出土遺物
- 图版175 第319号井戸跡出土遺物
第603号土坑出土遺物
第623号土坑出土遺物
第653号土坑出土遺物

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|--------------|
| 図版176 | 第653号土坑出土遺物 | | 第190号住居跡出土遺物 |
| | G-30グリッドP6出土遺物 | 図版189 | 第197号住居跡出土遺物 |
| | I-37グリッドP19出土遺物 | | 第200号住居跡出土遺物 |
| | 第599号溝跡出土遺物 | | 第201号住居跡出土遺物 |
| 図版177 | 第602号溝跡出土遺物 | 図版190 | 第206号住居跡出土遺物 |
| | 谷部出土遺物 | | 第207号住居跡出土遺物 |
| | グリッド・表探遺物 | 図版191 | 第208号住居跡出土遺物 |
| 図版178 | グリッド・表探遺物 | | 第211号住居跡出土遺物 |
| | 第134号住居跡出土遺物 | | 第215号住居跡出土遺物 |
| | 第585号溝跡出土遺物 | | 第217号住居跡出土遺物 |
| 図版179 | 第10号方形周溝墓出土遺物 | 図版192 | 第220号住居跡出土遺物 |
| | 第108号住居跡出土遺物 | | 第222号住居跡出土遺物 |
| 図版180 | 第113号住居跡出土遺物 | 図版193 | 第225号住居跡出土遺物 |
| | 第114号住居跡出土遺物 | | 第229号住居跡出土遺物 |
| 図版181 | 第114号住居跡出土遺物 | | 第234号住居跡出土遺物 |
| | 第116号住居跡出土遺物 | 図版194 | 第234号住居跡出土遺物 |
| 図版182 | 第116号住居跡出土遺物 | | 第236号住居跡出土遺物 |
| | 第122号住居跡出土遺物 | | 第238号住居跡出土遺物 |
| 図版183 | 第122号住居跡出土遺物 | | 第239号住居跡出土遺物 |
| | 第124号住居跡出土遺物 | 図版195 | 第247号住居跡出土遺物 |
| | 第134号住居跡出土遺物 | | 第265号住居跡出土遺物 |
| 図版184 | 第134号住居跡出土遺物 | | 第272号住居跡出土遺物 |
| | 第137号住居跡出土遺物 | 図版196 | 第272号住居跡出土遺物 |
| | 第139号住居跡出土遺物 | | 第279号住居跡出土遺物 |
| | 第140号住居跡出土遺物 | | 第280号住居跡出土遺物 |
| 図版185 | 第140号住居跡出土遺物 | | 第290号住居跡出土遺物 |
| | 第141号住居跡出土遺物 | 図版197 | 第295号住居跡出土遺物 |
| | 第157号住居跡出土遺物 | 図版198 | 第298号住居跡出土遺物 |
| 図版186 | 第157号住居跡出土遺物 | 図版199 | 第298号住居跡出土遺物 |
| | 第173号住居跡出土遺物 | | 第316号住居跡出土遺物 |
| | 第174号住居跡出土遺物 | | 第318号住居跡出土遺物 |
| 図版187 | 第174号住居跡出土遺物 | 図版200 | 第318号住居跡出土遺物 |
| | 第175号住居跡出土遺物 | | 第322号住居跡出土遺物 |
| | 第180号住居跡出土遺物 | | 第319号井戸跡出土遺物 |
| 図版188 | 第180号住居跡出土遺物 | 図版201 | 第640号土坑出土遺物 |
| | 第188号住居跡出土遺物 | | 第653号土坑出土遺物 |
| | 第189号住居跡出土遺物 | 図版202 | 谷部出土遺物 |

- グリッド・表採遺物
第211号住居跡出土支脚
- 図版203 古墳時代前期の土器
須恵器
- 図版204 須恵器甕
灰輪陶器
- 図版205 緑輪陶器
- 図版206 中世陶磁器
- 図版207 黒書土器・刻書土器
瓦塔
- 図版208 土製勾玉・丸玉
土錘
- 図版209 紡錘車未成品
紡錘車
- 図版210 腕輪形石製品
子持勾玉
石製品
鹿角製品
- 図版211 石製模造品(剣形)
石製模造品(有孔円板)
- 図版212 石製模造品(勾玉形)
白玉・ガラス玉
- 図版213 管玉
石材
- 図版214 砥石・石臼
- 図版215 板碑
- 図版216 石臼
石斧・石棒
- 図版217 漆椀(1)
- 図版218 漆椀(2)
- 図版219 漆椀(3)
- 図版220 木製品(1) 井戸杵・曲物底板
- 図版221 木製品(2) 井戸杵・曲物
- 図版222 木製品(3) 曲物・火鑽板・部材
- 図版223 壺鏡(1)
- 図版224 壺鏡(2)
金属製品
- 図版225 鏡
銭貨

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所では、洪水による被害を防ぐための治水事業として、スーパー堤防事業を行っている。

荒川右岸に面した大里町（現熊谷市）津田地先地区においても、洪水時における水防活動を支援するための、復旧活動の拠点や大里町公園整備、環境センター、プール、テニスコートなどのスポーツエリアなどを建設して、引き続きスーパー堤防と一体で整備を目指すこととなった。

県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）では、この事業の推進に伴う埋蔵文化財の保護について、従前より荒川上流河川事務所と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、建設省荒川上流工事事務所長（当時）より県教育長あて、平成12年11月13日付け荒上事計第30号で、埋蔵文化財の所在について照会があった。

これに対して文化財保護課（当時）では、確認調査を実施したうえで、平成13年1月18日付け教文第871号で、下田町遺跡の取扱いについて次のように回答した。

1 埋蔵文化財の所在

工事予定地には以下の埋蔵文化財が所在する。

名称 (No.)	種別	時代	所在地
下田町遺跡 (No64-Ⅱ)	集落跡	古墳・平安	大里町大字津田字 下田1542番地他

2 取扱い

上記の埋蔵文化財は、現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状を変更する場合は、事前に文化財保護法第57条の3（現第94条）の規定に基づく、埼玉県教育委員会教育長あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施すること。

発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施機関としてあたることとし、事業団・荒川上流河川事務所・文化財保護課（当時）の三者により、調査方法・期間・経費等についての協議が行われた。その結果、調査は平成13年6月1日から平成17年3月31日までの予定で実施されることとなった。

荒川上流河川事務所長から文化財保護法第57条の3（現第94条）の規定による埋蔵文化財発掘通知が提出され（平成13年6月21日付け教文第3-21）、調査に先立ち、第57条1項（現第92条）の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査届に対する指示通知番号は、次のとおりである。

平成13年7月1日付け 教文第2-37号

平成14年6月19日付け 教文第2-58号

平成15年5月19日付け 教文第2-15号

（生涯学習文化財課）

2. 発掘調査と報告書作成の経過

(1) 発掘調査

国土交通省による大里地区高規格堤防整備事業に伴う下田町遺跡の発掘調査は、平成13年度から平成16年度まで行われた。平成15年度の調査は、平成15年4月8日から平成16年3月24日まで実施した。調査面積は9,000㎡である。調査区の中央を南北に貫く水路によって、調査区は東西に分断されており、水路を挟んで西側の調査区を西区、東側の調査区を東区と呼称する。

今回本書に掲載するのは、平成15年度西区(約7,000㎡)の調査成果である。東区は平成16年度調査区と接し、その境に位置している第12号方形周溝墓の全貌が明らかになったのは、次年度の調査を待たねばならなかった。そのため、同一の遺構が集数の異なる報告書に分割され、煩雑になることを避けるため、東区の調査成果は平成16年度分とあわせて報告することとした。ただし、以下に記す発掘調査の経過は、西区東区あわせた平成15年度調査全体を対象としている。

調査着手前に、あらかじめ事業者によって土留めのためのシートパイル打ち込みと、調査員立会いのもと、調査区内の表土除去作業を約1mの深さまで実施した。4月上旬から事務手続きや事務所設置等の調査準備を行い、5月下旬より、重機による遺構確認面までの掘削を開始した。6月末から人力による遺構確認を始め、遺構精査も順次行った。遺構確認がある程度進んだ時点で、随時10m方眼の基準点測量を実施した。遺構確認と精査の結果、方形周溝墓、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、土坑、ビット等が次々と発見された。遺構の分布は前年度までと比較しても非常に濃密で重複が著しく、特に竪穴住居跡の確認精査には困難が伴った。西区の南端には谷部が検出され、遺物包含層が確認された。遺構精査の後、遺物の出土状況や遺構の写真撮影や図面作成を行い、遺跡の記録保存に万全を期した。

調査は、水路工事・盛土工事などの築堤工事と平

行して実施したため、西区中央部、西区北部、西区南部、東区の順に調査を行い、西区中央部は平成15年11月20日に、西区北部・南部は平成16年1月14日に、東区は3月1日に現地調査を完了した。空中写真撮影は調査区を引き渡すことに都合3回実施した。その後、図面整理等の室内業務を行い、調査期間内にすべての作業を終了した。

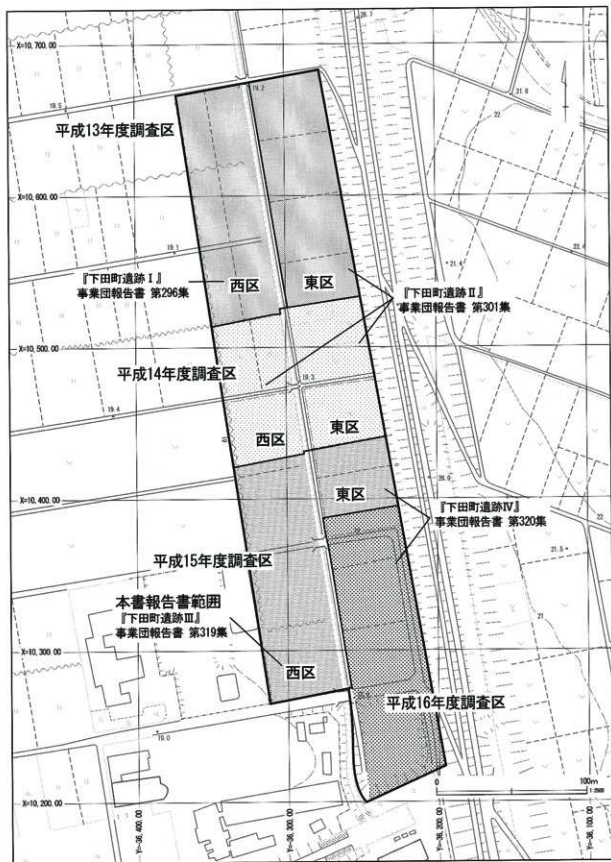
なお、本遺跡は、今年度も引き続き埋蔵文化財を教育・普及に活用する場として提供された。平成15年11月2日には、大里町教育委員会(当時)と共催で遺跡見学会を開催した。県内外から265名の方々の参加者があり、調査で発見された遺構や遺物をまじかに見学することにより、地域の歴史に触れ、理解を深めていただくまたとない機会となった。8月1日には上尾市秀明光光高等学校郷土地理部員数名が発掘体験実習を行い、11月19・20日には大里町(当時)大里中学校の1年生4名が、職場訪問として3日間、発掘の仕事を経験した。また、10月23日には埼玉新聞社の取材を受け、28日に黒漆塗壺出土の報道が紙面を飾った。

(2) 整理・報告書の作成

下田町遺跡の整理・報告書の作成事業は、平成17年7月1日から平成18年3月24日まで実施した。

7月から出土遺物の水洗・注記、接合・復元作業、遺構図及び写真や図面整理を開始した。

図面整理の後、遺構については第二原図の作成とパソコンによるトレース作業を行い、遺物についてもパソコンを活用しながら、順次実測を行った。8・9月には集中的に木器の実測を行い、11月に遺物の実測は終了した。遺物のトレースも並行して進め、12月に終了した。11月に遺物の復元作業が終了し、写真撮影を行った。遺物版下作成は12月より進め、1月中には終了した。12月から1月にかけて割付作業・原稿執筆を行い、2月初旬に印刷業者を入札し、平成18年3月末に報告書を刊行した。



第1図 下田町遺跡調査区分図

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査 (平成15年度)

理事長 桐川卓雄
副理事長 飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長 中村英樹

(管理部)

副部長 村田健二
主席 田中由夫
主任 江田和美
主任 長滝美智子
主任 福田昭美
主任 腰塚雄二
主任 菊池久

(調査部)

調査部長 宮崎朝雄
調査部副部長 坂野和信
主席調査員(調査第一担当) 昼間孝志
統括調査員 瀧瀬芳之
主任調査員 福田聖
主任調査員 中山浩彦

(~10月31日)

調査員 松岡有希子
調査員 安生素明

(2) 整理作業 (平成17年度)

理事長 福田陽充
副理事長 飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長 保永清光

(管理部)

副部長 村田健二
主席 高橋義和
主任 宮井英一
主任 長滝美智子
(~8月5日)
主任 福田昭美
主任 菊池久
主任 海老名健

(~3月15日)

主任 岩上浩子
(8月1日~)

主任 結城淑恵
(3月1日~)

(調査部)

調査部長 今泉泰之
調査部副部長 坂野和信
主席調査員(資料整理第一担当) 磯崎一
統括調査員 赤熊浩一
統括調査員 瀧瀬芳之
主任調査員 中山浩彦

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

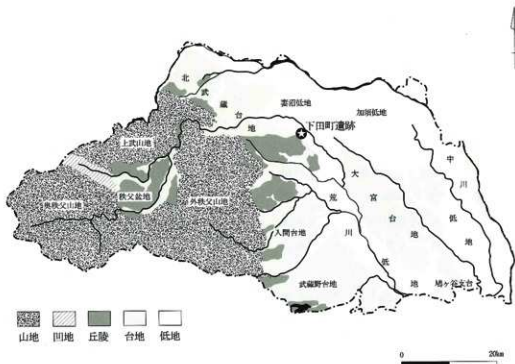
下田町遺跡は、埼玉県大里郡大里町（現熊谷市）大字津田字埋田町1775番地ほかに所在する。埼玉県大里町は、地形的に見て、関東平野のなかでも西縁にあって、関東構造盆地の周縁部と中央部の中間地帯にあたり、荒川中流域右岸に位置している。町は、西にある比企丘陵と東の荒川に挟まれた低地帯に位置する。

大里町は、近年の宅地化と人口増加もあり、平成13年に町割が施行された。大里町の西側を南北に国道407号線が走る。国道は熊谷市と東松山市を結び、大里町はその中間にあたる。町全体は、畑地と水田の広がる農村地帯である。大里町には鉄道の駅はなく、下田町遺跡は隣町にあるJR高崎線吹上駅から西北西の方向に約2.75kmの位置にある。

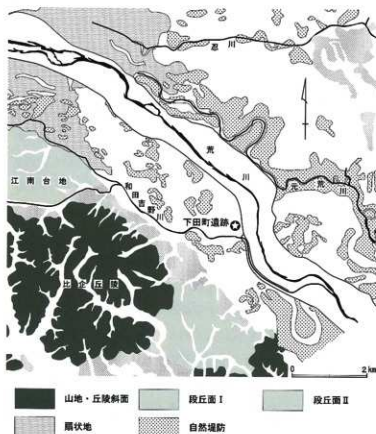
西側にある比企丘陵は、荒川右岸に分布する江南台地、吉見丘陵、東松山台地、岩殿丘陵、高坂台地、

入間台地などの複数の丘陵の一つである。比企丘陵は、北の江南台地と南の東松山台地に挟まれ、秩父山地の中で秩父盆地より東の山地である外秩父山地から半島状に長く突き出した丘陵である。丘陵の東縁には二つの段丘面が形成されている。高い方の段丘面Ⅰは最終間氷期に形成された面、低い方の段丘面Ⅱは最終氷期前期に形成された面である。

東側に広がる低地部は、砂やシルトが堆積して微高地となっている自然堤防と後背湿地とに区別される。これらの微地形は、主に江戸時代以降に繰り返してきた洪水による地形である。現在の荒川の流路は、江戸時代に人工的に作られたことが知られている。荒川は大里町の町界となる河川であるが、寛永六年（1629）に関東郡代伊奈備前守忠治の命により、熊谷市久下で元荒川を締め切り、和田吉野川につなぐ新川の開削を行い、入間川に合流させて現在の荒川の本流を形成した。このため、江戸時代の河川改



第2図 埼玉県の地形



大矢雅彦・高山一・久保純子・応用地質株式会社 1996
『荒川流域地形分類図』（建設省関東地方建設局荒川上流工事事務所）を改変

第3図 下田町遺跡の周辺地形

修以前の生活史を残す遺構面は、江戸時代以降の新たな荒川本流に起こった洪水の土砂の堆積によって地中深くに埋没することとなった。本遺跡所在地の現地表面は18.7m、遺構確認面は16.7mであり、このようにして埋没した遺跡の一つである。

遺跡は、和田吉野川左岸の自然堤防上に立地しており、河川環境にも恵まれた土地である。古代の和田吉野川は、西方の寄居町を水源として、比企丘陵の北側を東へ流れる吉野川と和田川が大里町下恩田地区で合流し、さらに下流で入間川と合流し、東京湾に注ぐ主要河川である。

また、遺跡の南側には、「津」という字の付いた地名が見られる。河川が近く、水上交通の拠点としての機能を持つ土地につけられることがあることから、下田町遺跡の所在地名にある津田という大字は、この地が和田吉野川の河川交通の要衝であったこと

をうかがわせる。調査の結果、下田町第2次調査の第80号溝跡からは、海水産のカキ、ハマグリ、アサリなどが大量に廃棄された状態で出土した。これらの貝類は、船で東京湾から運ばれたものと考えられ、河川交通が盛んであったことを物語る。

この他、本河川の北側には大宮台地の東側を古代の主要河川である元荒川が位置し、さらに東側には、古利根川が位置する。これらの河川に加え、中小の河川をも含めた河川交通網が作られていたと考えられる。「埼玉の津」と万葉集に読まれた場所として指摘される行田市築道下遺跡は元荒川の河岸のような機能が考えられる。このほか、河川の流域には古墳時代に多くの遺跡が形成される。

2 歴史的環境

下田町遺跡では、縄文時代後期、弥生時代中期後半、後期末～古墳時代前期、古墳時代中期、後期、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代の各時代の遺構・遺物が検出された。周辺でこれまでに確認されている遺跡および各時代の歴史的環境の概要については、既に「下田町遺跡Ⅰ・Ⅱ」において記載した。ここでは、今回報告する第4次調査と第5次調査において検出された遺構・遺物の属する時期に絞り、周辺遺跡および歴史的環境について触れることにする。

下田町遺跡で、縄文時代の遺構は検出されていないが、縄文時代後期の土器片がわずかに出土している。周辺に縄文時代の活動域が存在していたことをうかがわせる。縄文時代後期は、全体的に遺跡数の減少傾向と規模の縮小傾向がみられる時期であるが、一方で、沖積地でも遺跡の検出例が知られるようになる。下田町遺跡の周辺では、台地上の桜谷遺跡で堀之内Ⅰ式期の住居跡と土壌が検出されているほか、桜谷東遺跡や東山遺跡でも住居跡と土壌がみ

つかっている。これら台地の遺跡だけではなく、自然堤防上に立地する成願遺跡でも、遺構こそ検出されなかったものの、縄文時代後期の深跡が出土し、沖積地での当時の活動の展開がみられる。

下田町遺跡で次に人々の活動の痕跡が確認されるのは、弥生時代中期後半になってからである。比企丘陵では、櫛状工具により施文された波状文や櫛描文をもつ岩鼻式土器と縄文を施文文様とする吉ヶ谷式土器が存在する。本遺跡では、両者の出土を住居跡や方形周溝墓から見られるものの明瞭な共存関係をつかめる資料はない。周辺にみられる該期の遺跡は、西南西の台地上に立地する船木遺跡で、方形周溝墓が検出されている。このほか、船木遺跡に隣接し、一段階古い中期中葉の壺形土器が出土している円山遺跡がある。近隣地域では、東方で自然堤防上に立地する袋・台遺跡が知られ、該期の住居跡が検出されている。7kmほど北側の荒川扇状地扇端部は、弥生時代中期から後期にかけての遺跡が集中する地域で、中期中葉の池上・小敷田遺跡、中期後半から末にかけての北島遺跡、前中西遺跡、諏訪木遺跡など複数の遺跡で遺構および遺物が出土している。

下田町遺跡でも確認されている方形周溝墓は、西日本から稲作農耕を伴って伝播した弥生文化の一要素であり、埼玉県域ではその分布から、関東地方南部に達した後に、荒川を遡上して広がったものと考えられている。注目されるのは、下田町遺跡での検出例が、荒川扇状地扇端部を除く低地で方形周溝墓が検出された初めての例であり、低地部への進出は荒川扇状地扇端部だけではないことが示されたことである。周辺の低地部にも弥生時代の遺跡が埋没している可能性があり、今後の調査が期待される。

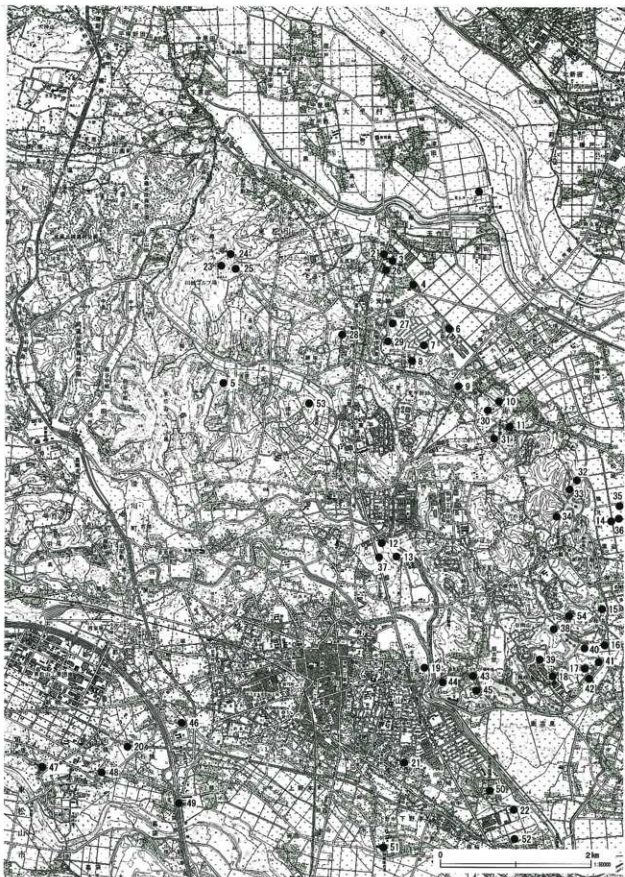
弥生時代後期から古墳時代前期にかけての周辺地域では、比企丘陵などに分布する櫛描文を主体とする櫛描文系土器と、県北部などに分布する縄文施文を主体とする吉ヶ谷式土器の両者の土器がみられる。遺跡数の増加もみられ、比企丘陵や県北部との交流が活発であったことがうかがえる。周辺では、

桜谷遺跡、大境遺跡、船木遺跡、円山遺跡、箕輪遺跡、北廓遺跡、東松山市玉太岡遺跡など低地を望む台地上の遺跡と、成願遺跡など低地の自然堤防上の集落遺跡がある。成願遺跡や下田町遺跡のような低地に立地する集落は、近年の調査によって明らかにされたものである。両遺跡では、遺物にも共通性がみられ、関係が目される。また、これらの低地部の集落と台地の集落との関係についても今後の調査研究で注目されることである。稲作農耕を基盤とした社会の発展に必要な低地開発が継続して進められていたと考えられる。

古墳時代前期には、東松山市五領遺跡のように住居跡100軒以上から成る大規模集落が形成されるようになる。遺物には、東海地方など各地域の影響が土器などにみられるようになり、周辺各地との交流もさらに盛んなものとなる。全国的には古墳の造営が始まる時期だが、下田町遺跡周辺では、墓制は依然として方形周溝墓が営まれている。遺跡周辺では、楓山西遺跡、大境遺跡、大境南遺跡、大林南遺跡、玉太岡遺跡、箕輪遺跡、船木遺跡などで中・小規模の集落が確認されている。

古墳時代後期になると周辺に古墳が築造される。東松山市青山古墳は、全長90mの円墳で、円墳としては埼玉古墳群の丸墓山古墳に次ぐ大きさをもつ全国屈指の規模である。墳丘からは埴輪片が表採され6世紀前半の築造とされている。また、とうかん山古墳は、全長74mの前方後円墳で、墳丘から表採された埴輪や土器片から6世紀中葉前後とされている。とうかん山古墳は、隣接する箕輪遺跡や五反林遺跡などの古墳を含め古墳群を形成している。このほか、円山古墳群、阿諏訪野古墳群、東山古墳群、楓山古墳群、賢木丘古墳群などが所在し、いずれも6世紀以降の後期古墳群である。

古墳時代後期の集落は、沖積地に積極的に進出する。下田町遺跡ではこれまでに79軒の竪穴住居跡、38棟の掘立柱建物跡を検出した。また、集落域の北側は大規模な溝を掘削し、灌溉・治水事業を積極的



第4図 周辺の遺跡

に行ったと考えられる。和田吉野川を挟んだ対岸の成願遺跡は、自然堤防上に形成された集落で住居跡58軒、掘立柱建物跡21棟を検出した。

下田町遺跡のように低地を居住空間とした集落の特徴は、治水事業を伴う集落形成であったと理解する。このため、集落内には、用排水機能を備えた多くの溝跡を掘削している。

この他、出土遺物で、特に、滑石製品が多く出土していることが注意される。また、未製品の剥片や原石に近い素材が多く出土している。

下田町遺跡全体では石製模造品を図示したのもだけでも176点検出している。この他、石製紡錘車の未製品を5点検出した。近接する熊谷市船木古遺跡でも勾玉、石製模造品、原石剥片が出土し、やはり紡錘車の未製品が出土している。和泉期の第11号住居跡は工房跡と考えられている。

第1表 周辺遺跡一覧表

1	下田町遺跡	28	曹山古墳
2	玉大岡遺跡	29	東山古墳
3	北郭遺跡	30	炭塚古墳
4	中郭遺跡	31	田甲原古墳
5	吉ヶ谷遺跡	32	黒岩横穴群
6	船木遺跡	33	茶白山古墳
7	円山遺跡	34	神代古墳
8	桜谷遺跡	35	横見神社古墳
9	北谷南遺跡	36	御所古墳群
10	中山遺跡	37	岩鼻古墳群
11	田甲原遺跡	38	三塚古墳群
12	岩鼻遺跡	39	かぶと塚古墳
13	八幡遺跡	40	山の上3号墳
14	稲荷前遺跡	41	山の上2号墳
15	丸山遺跡	42	山の上1号墳
16	和名遺跡	43	稲荷塚古墳
17	山の上遺跡	44	吉見百穴横穴群
18	久米田遺跡	45	羽黒山古墳
19	観音寺遺跡	46	青島古墳群
20	嬬子山遺跡	47	曹塚古墳
21	五領遺跡	48	若宮八幡古墳
22	香清水遺跡	49	兩川古墳群
23	三千塚古墳	50	稲荷塚古墳
24	雷電山古墳	51	野水將軍塚古墳
25	秋葉塚	52	おくま山古墳
26	とうかん山古墳	53	大谷瓦窯跡
27	楓山古墳	54	和名地輪窯跡群

県内では、滑川町月の輪神社西遺跡、東松山市駒堀遺跡、吉見町田甲原遺跡¹⁰⁾などで紡錘車の未製品が出土している。

また、藤岡市西平井に位置する竹沼遺跡では、古墳時代後期の製作工房跡9軒を調査し、使用石材は滑石で、製作主体は白玉、紡錘車、管玉、剣形品などである。1号住居跡からは白玉と紡錘車の製作工程をおえる資料が出土し、滑石の荒削り、形削り、研磨、穿孔段階の未製品が出土している。石製紡錘車の未製品は、群馬県高崎市並榎台原遺跡、田端遺跡から出土し、茨城県稲敷郡阿見東遺跡や結城市善長寺遺跡、新潟県糸魚川市田伏遺跡でも検出されている。また、福島県安達郡本宮町百目木遺跡からは住居跡の床面から製作途中の紡錘車が17点まともって検出している。この他、いわき市タタラ山遺跡では、紡錘車の未製品のほか、滑石片が住居跡内から10.7kg出土した。

奈良・平安時代になると、律令体制の機構のもと下田町遺跡は大里郡に帰属する。大里郡は、郡家郷、市田郷、楊井郷、余戸郷の4郷からなる小郡である。

周辺には、堅穴住居跡300件以上を検出した北島遺跡や出挙木簡を出土した小敷田遺跡などが位置する。このほか、諏訪木遺跡、池上遺跡、一本木前遺跡などの集落跡が存在し、古墳時代後期以降この地域は継続的に集落が形成されている。

下田町遺跡の奈良時代の第319号井戸跡からは黒漆塗り壺蓋を検出した。壺蓋を出土した遺跡には、大坂府大阪市四天王寺境内遺跡、新潟県柏崎市箕輪遺跡、福岡県北九州市石田遺跡がありいずれも奈良時代末の時期である。形態的特長は、奈良時代の伝世品と考えられる法隆寺献納宝物や東大寺正倉院に納められている鉄製黒漆塗りの馬具に見られる。

次に、平安時代の漆付着の容器である。検出点数は須恵器坏・高台付埴6点、須恵器壺1点である。漆付着土器の出土位置を検討するとその分布は、西区の北側から中央付近にかけて見られる。検出した遺構は、井戸跡及び溝跡である。特に、第286号溝跡

出土の須恵器環は刷毛の痕跡が見られる。また、第222号井戸跡からは3点の漆付着の須恵器高台付塚が出土している。このほか、表探資料ではあるが須恵器長頸瓶の口縁部破片の内面には漆が全体付着し漆容器と考えられる。

漆の付着する容器は奈良・平安時代に多く見られる。この時代の漆は、漆採集に使用した容器なのか、下田町遺跡出土の木製黒漆塗壺や第2号井戸跡出土の木製黒漆塗鞍など、漆製品の生産にかかわる遺跡であったのか、生活の中で容器として使用していたのか様々な可能性が指摘できる。

漆壺が検出された遺跡には、行田市築道下遺跡、熊谷市北島遺跡、さいたま市根切遺跡が知られる。

また、平安時代の遺跡からは土師器・須恵器の環や塚類が主に出土し、熊谷市北島遺跡、行田市築道下遺跡、鴻巣市新屋敷遺跡、上里町中塚遺跡が知られる。

漆を土器の表面に塗った漆塗り土器が使われていたと考えられ、平安時代も9世紀後半になると土器は、須恵器、土師器の食器セットが、焼成温度の低い軟質の須恵器、内面黒色処理された黒色土器、わずかに検出される土師器、灰釉陶器、緑釉陶器などの食器セットへと変化すると考えられる。この中に漆塗り土器が存在したことになるだろう。

さらに貴重な行政文書として、平安時代の大里郡を記録した「武蔵国大里郡坪付」とよばれる文書が残されている。この文書は、九条家本「延喜式」の裏文書の中に記され大里郡印が押されている。大里

郡の役所の下で条里制が施行され、各坪単位に田畑の面積を把握し、記載されていたことがわかる。記された地域がどこの地域の条里地割に比定できるのか注目される。本遺跡の調査は、平安時代の東西・南北方向の溝跡を検出でき条里の坪付け畦畔を推定する上で貴重な成果である。また、集落域にまで坪並みの区画が見られるとすれば注意され、下田町遺跡が低地に展開していることに要因があると考えられる。

鎌倉・室町時代には、幅2～3m、深さ1～2mの溝跡が見られる。この溝跡は二条の南北方向に平行して伸び、さらに東西方向に分岐して伸びる。屋敷地の区画を意味させる堀割りと考えられるが、この遺構が防衛的機能を持つのか、あるいは、通運などの機能があったのか検討する必要がある。このほか、井戸跡や火葬土坑の遺構も確認でき中世の屋敷跡が存在していたものと考えられる。

県内には、中条館跡、河越館跡、真鏡寺館、ミカド遺跡などの中世館が知られておりこれらの構造とも溝跡の区画などは大きく異なるあり方であり、検討する必要がある。また、中国製の緑釉盤が検出された。東国の館では三彩の盤または洗が出土し、河越館跡、阿保氏館、大久保山遺跡などから出土している。白磁四耳壺、青磁梅瓶とセットで出土することが多く貴重な遺物である。

下田町遺跡における中世については、比企氏や大車氏など武蔵武士の活躍と合わせ注目される。

引用・参考文献

- 高崎光司 1990 『玉太岡遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第90集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
増田逸朗 1993 『古墳時代の祭祀』 『埼玉県の祭祀遺跡』 東日本埋蔵文化財研究会
赤熊浩一・岡本健一 2004 『下田町遺跡Ⅰ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第296集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
赤熊浩一・松岡有希子 2005 『下田町遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第301集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
塩野 博 2005 『埼玉の古墳』 大里 さきたま出版会
埋蔵文化財研究会 2005 『古墳時代の滑石製品』
瀧澤芳之 2005 『奈良時代の壺蓋が出土した大里町下田町遺跡について』 『武蔵野』 第81巻第1号 武蔵野文化協会

註 太田賢一氏の御教示による。

III 第4次調査西区の概要

事業団による下田町遺跡の発掘調査は、荒川堤防際の東西約90m、南北約380mの長方形の調査区に対し、平成13年～16年度（第2～5次）の4ヶ年計画で実施された。本書で報告する下田町遺跡第4次調査西区は、第3次調査西区の南側の続きにあたり、面積は約7,000㎡である。

調査区南端では、東側に入り込む谷地形が発見された。この谷部は、第5次調査の結果、南北に大きく侵食していることが判明した。調査区全体の地形は谷部に向かって緩やかに低くなり、谷の落ち際には古墳時代～古代の遺物包含層が堆積している。

遺構は、調査区の北端から谷部の際まで空白を見せることなく分布している。検出されたのは、方形周溝墓1基、竪穴住居跡210軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡85基、土坑95基、ピット819基、火葬土坑6基、溝跡74条である。

方形周溝墓は、四隅が切れる第10号方形周溝墓が検出された。古墳時代前期の方形周溝墓は、これを含め、第4次調査東区から第5次調査区にかけて8基分布している。第10号方形周溝墓はその一群のなかでも古い段階に築造されたものといえよう。

竪穴住居跡は、多くの重複を形成しつつ、下田町遺跡では、かつて見られなかった濃密な分布をみせている。古墳時代前～後期、奈良・平安時代の住居跡が検出されている。

古墳時代前期の住居跡は、方形周溝墓群の南側に当たる調査区中央に分布している。墓域と集落域が明確に区分されており、相互の関連性を指摘できる。第157号住居跡からは、刻み目を施した鹿角製品が出土した。

また、住居跡の確認面や埋土中から、当期に属する腕輪形石製品が2点出土した。うち、一つは完形品である。出土状況から、集落に伴うものではなく、先述した方形周溝墓群の副葬品であった可能性が高い。

もっとも軒数が多く、集落の中心となるのは古墳時代後期（6世紀代～7世紀前半）の住居跡である。この時期はほぼ調査区の全面に広がって集落が形成される。滑石製の石製模造品や玉類など、石製品が豊富に出土するのが特徴といえる。工房跡は検出されていないが、第200号住居跡のように、材料とみられる原石が出土した例や、第201・294号住居跡から出土した紡錘車の未製品は、この時期、本遺跡で石製品の製作が行われていた可能性を示唆している。

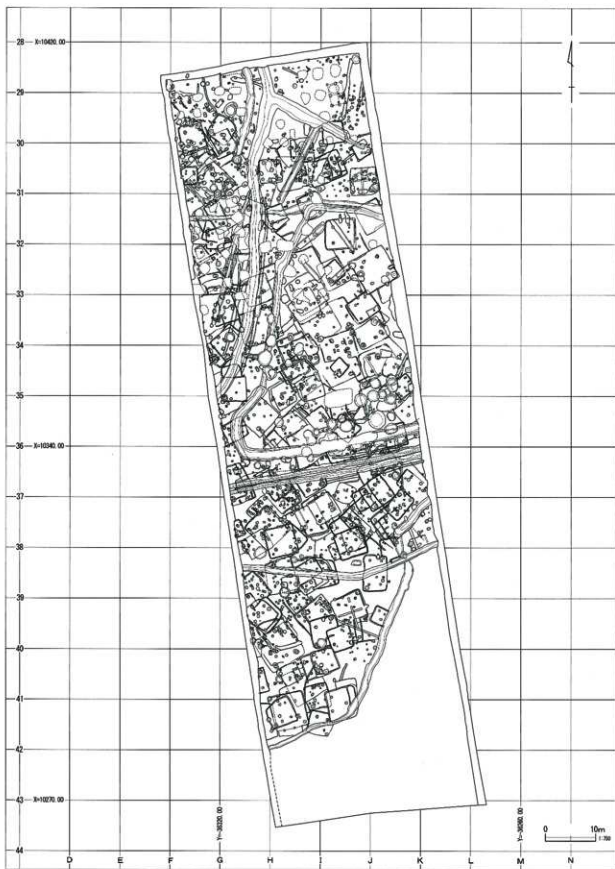
奈良・平安時代の住居跡は、軒数が少なく谷部に沿って点在している。

掘立柱建物跡は第50・51号の2棟が検出された。ともに単独で存在し、前者は古墳時代後期の倉庫跡、後者は古代以降の建物跡と考えられる。

井戸跡は、調査区中央から南西側に多く分布し、集中する傾向がある。いずれも古墳時代後期から中世にかけて掘られたものである。古墳時代後期の井戸跡は規模が小さく筒状で、平安時代から中世の井戸跡は掘り方が大きく、井戸枠が組まれるものもある。第315号井戸跡からは新式の子持勾玉が、第319号井戸跡からは、奈良時代前半の土器とともに、黒漆塗りの壺蓋が出土しており、注目される。

土坑からは、古墳時代前期から中世までの遺物が出土しているが、その用途が判明しているものはほとんどない。第653号土坑は掘り込みが大きく、古墳時代前期の上器が豊富に出土している。井戸跡の可能性もある。また、第571号土坑からは中世の短刀が出土している。火葬土坑はいずれも中世のもので、茶毘跡と考えられる。火葬骨や歯が残存している。

溝跡は、古墳時代前期から中世に至る時期のものである。奈良・平安時代の溝跡には、方位に沿った直線的に延びる区画溝が含まれる。また、過去の調査で検出され、南方向へ延びてきた中世の居住区域を区画した地刻溝は、谷部の手前で終焉を迎え、集落域の南限を示している。



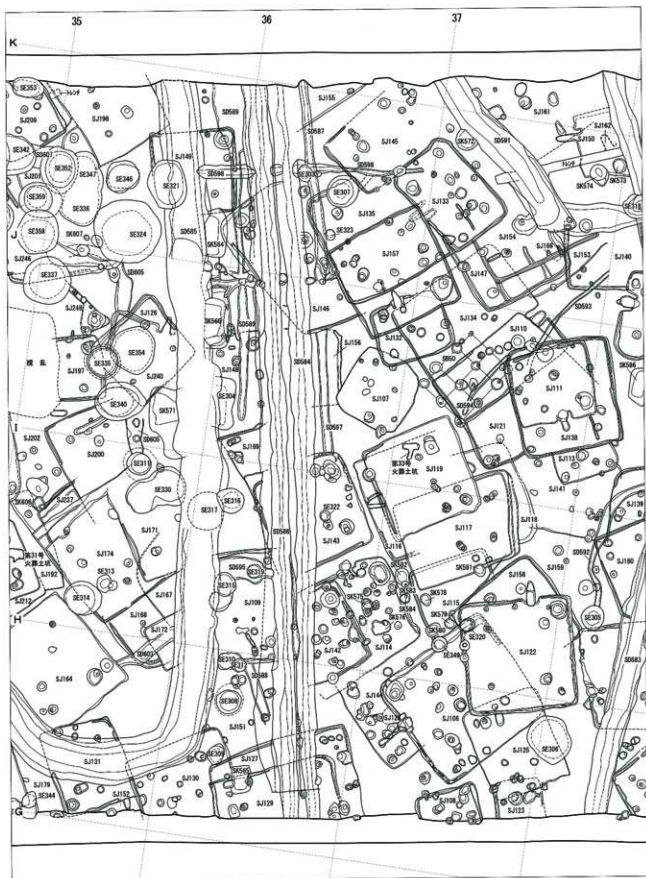
第5図 第4次調査西区グリッド配置図



第6图 第4次调查西区遗址全体图(1)



第7图 第4次調査西区遺跡全体图(2)



第 8 图 第 4 次调查西区遗址全体图 (3)



第9图 第4次調査西区遺跡全体图(4)

IV 第4次調査西区の遺構と遺物

1. 方形周溝墓

第4次西区の調査では、方形周溝墓を1基のみ検出した。これ以下田町遺跡から検出された方形周溝墓の総数は11基となる。

方形周溝墓は、古墳時代後期の住居跡の床面下から検出されたため、残りは良くなかったが、形態は四隅が切れるタイプのものであった。これまで検出された方形周溝墓を平面形態別に分類すると、コーナー部分に陸橋部をもつタイプが1基（第4号方形周溝墓）、溝の2箇所に陸橋部をもつタイプが2基（第2・3号方形周溝墓）、四隅が切れるタイプが7基（第1・5・6・7・8・9・10号方形周溝墓）、全容が不明のものが1基（第13号方形周溝墓）である。溝が全周するタイプのもので1基も検出されていないことが特筆される。時期は、第1号方形周溝墓が弥生時代中期後半で、時期が不明である第13号方形周溝墓を除く他の9基は古墳時代前期である。四隅が切れるタイプのもので、一辺の長さが短く、幅が広いタイプの第1号方形周溝墓は古く、一辺の長さが長く、幅が狭くなるものは時期が新しくなる。

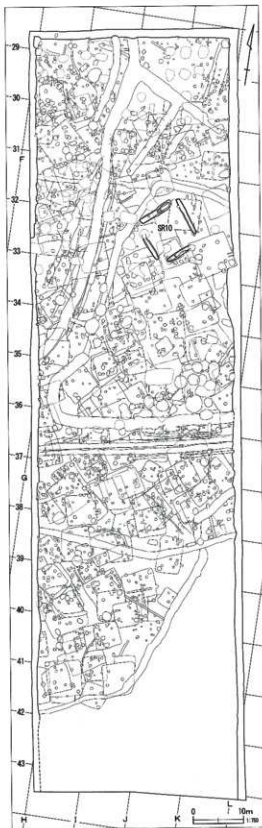
第10号方形周溝墓（第11・12図）

H・I—31・32グリッドにかけて検出された。古墳時代後期の第211・216・217・224・225号住居跡や中世の第356号井戸跡などによって壊されていたため、残りが良くなかった。

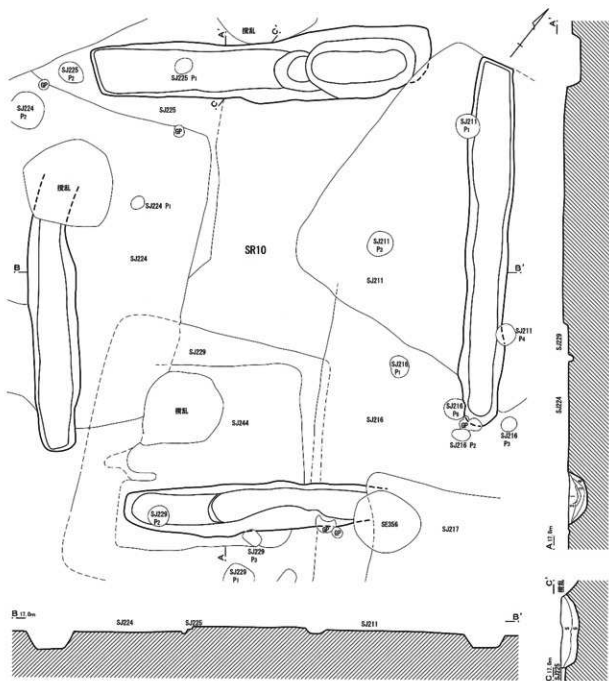
周溝は4本検出され、四隅が切れるタイプの方形周溝墓である。調査において4本の周溝に各溝番号を付けて調査を行った。旧番号は、北溝がSD611、東溝がSD610、南溝がSD614、西溝がSD615である。

全体の規模は、南北10.53m、東西10.22mで、正方形をしていた。長軸方向は、N—39°—Wであった。

各周溝の規模は、北溝が長さ7.21m、幅1.07—



第10図 方形周溝墓全体図



第10号方形周溝墓

- 1 黒色土 10YR2/1 地山ブロック (φ1~5mm)・炭化物粒子
- 2 黒褐色土 10YR3/1 地山ブロック (φ1~5mm) 多量
- 3 黒色土 2.5YR2/1 地山ブロック焼成
- 4 赤色土 2.5YR2/1 地山ブロック少量
- 5 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・粘土粒子・炭化物粒子 (φ1~5mm) 少量
- 6 黒色土 2.5Y2/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・ブロック (φ3~5mm) 多量

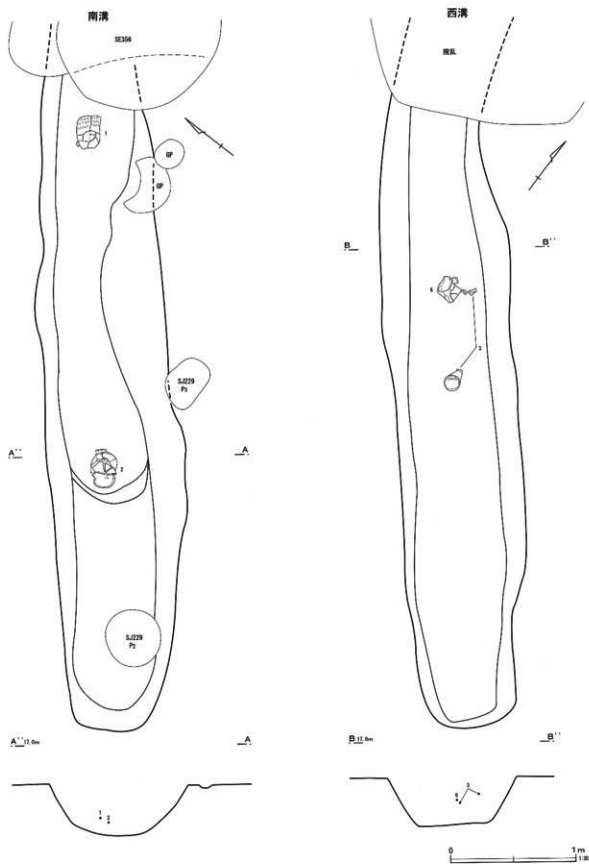
0 2m
1m

第11図 第10号方形周溝墓

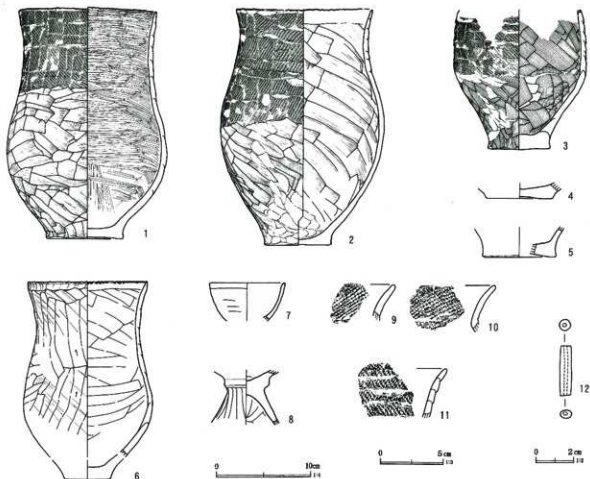
1.51m、深さ0.22~0.39m、東溝が、長さ7.61m以上、幅0.81~1.0m、深さ0.25~0.3mで、南溝が長さ5.1m以上、幅0.87~1.11m、深さ0.3~0.38m、西溝が長さ4.84m以上、幅0.75~1.02m、深さ0.3~

0.38mであった。各溝とも壁の立ち上がりは緩やかであった。北溝の東端は土坑状に一段深く掘り込まれていた。

方台部は、南北8.11m、東西8.34mであった。後



第12图 第10号方形周溝墓遺物出土狀況



第13図 第10号方形周溝墓出土遺物

第2表 第10号方形周溝墓出土遺物観察表

押図番号	造構番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
13	1	SR	10	土師器	甕	14.7	24.3	8.0	ほぼ完形	片角石英赤粒白粒	良好	鈍い褐	179-1
13	2	SR	10	土師器	甕	14.4	24.8	7.0	ほぼ完形	片角石英赤粒	良好	鈍い黄褐	179-2
13	3	SR	10	土師器	甕	—	[14.7]	6.6	3/4	片石英赤粒	良好	灰褐	152-1
13	4	SR	10	土師器	甕	—	[1.7]	(7.0)	破片	雲角石英	不良	褐灰	
13	5	SR	10	土師器	甕	—	[3.2]	(7.8)	破片	赤粒白粒黒粒	普通	鈍い黄橙	
13	6	SR	10	土師器	甕	12.7	[18.5]	—	3/4	片角石英赤粒	良好	灰褐	179-3
13	7	SR	10	土師器	埴	(4.0)	[4.0]	—	破片	雲赤粒白粒	普通	鈍い橙	赤彩
13	8	SR	10	土師器	高坏	—	[5.8]	—	1/4	石英赤粒白粒	普通	橙	
13	9	SR	10	土師器	甕	—	—	—	破片	雲砂粒	普通	鈍い褐	
13	10	SR	10	土師器	甕	—	—	—	破片	雲角赤粒	普通	黒褐	
13	11	SR	10	土師器	甕	—	—	—	破片	角赤粒	普通	黒褐	
13	12	SR	10	石製品	管玉	径0.6	長さ2.6	重さ1.6	完形				213-1-1

世の造構に壊されているため、マウンドや埋葬施設を確認することはできなかった。

遺物は、南溝と西溝の底面から少し浮いた位置から出土している。南溝からは、第13図1・2のほぼ完形の吉ヶ谷式の甕が2点出土した。西溝からも

3・6の完形に近い甕が2点出土した。6の甕のみ、外面には輪積み痕が認められなくなり、ヘラナテ調整のみで、縄文が施文されない。また、東溝からは長さ2.6cmの完形の管玉が1点出土している。

2. 竪穴住居跡

第4次調査(西区)における竪穴住居跡の調査軒数は210軒である。住居跡の軒数は、第2次調査では58軒、第3次調査では37軒と比較的少なく、その分布も散漫であったが、南下し、谷部に近づくにつれて急激に密集した分布状態を示すようになる。

住居跡の時期別の内訳は、古墳時代前期35軒、古墳時代中期18軒、古墳時代後期141軒、古墳時代末1軒、奈良時代1軒、平安時代3軒、時期不明11軒である。

古墳時代前期の住居跡は、本調査区で初めて検出された。その分布は調査区の中央部に集中し、第2次～第5次調査で検出された方形周溝墓群の南に、同時期の集落が営まれていることが判明した。住居跡の規模は、一辺5m～6mのものが中心となる。

古墳時代中期の住居跡は、古墳時代の中でもっとも軒数が少ないが、全体に散在する分布状況が確認される。集落域が徐々に北側に広がっていく様子がかがえる。

古墳時代後期の住居跡は、調査区全体にまんべんなく密集するが、北側の第3次調査区との間には空白域が存在する。住居跡の規模は、一辺3.0mの小型のものから、一辺7.3mの大型のものまで存在する。カマドは北側か東側に有するものが主流である。

古墳時代末～奈良・平安時代の住居跡は南側谷部に沿って点在している。重複関係はなく、時期的には断絶しており、各時期1～3軒で営まれている。

今回の調査では、住居跡同士の重複が激しいため、確認面における精査では、その形状や新旧関係を正確に把握することができない事例があった。その際には、トレンチ調査や範囲を限定した一括掘り下げ調査を実施し、その全容に努めた。それにもかかわらず、壁の立ち上がりや床面を掘り過ぎてしまうといた場合もあり、結果的に記録できずに失われてしまったデータも遺憾ながら存在する。

住居跡番号は、前調査までの通し番号を使用したのが、調査中および整理過程において、同一の住居跡

であったことが判明したものや、住居跡ではないと判断されたものは欠番とした。また、調査が中央部→北側→南側の順で進行したため、住居跡を含む遺構の番号は、総じて同様の順番で付されている。

住居跡をはじめとする遺構の時期は、主として下田町編年I～XV期で表わした。詳細は第V章第1節を参照されたい。

第106号住居跡(第16～18図)

G・H—37グリッドに位置する。北側は第128・144号住居跡と、南側は第115・122・125・158号住居跡と重複し、すべての住居跡を切って構築されている。第306・320・349号井戸跡と重複する。

平面形は正方形で、規模は東北—西南に6.5m、南東—北西は推定で6.9mである。南側は重複のため、南東の立ち上がりを明瞭に確認できなかった。確認面から床面の深さは、埋土がもっとも良好に検出できた箇所、約15cmである。埋土にはブロックがあまり含まれていないため、自然に堆積したものと考えられる。主軸の傾きはN—48°—Wである。

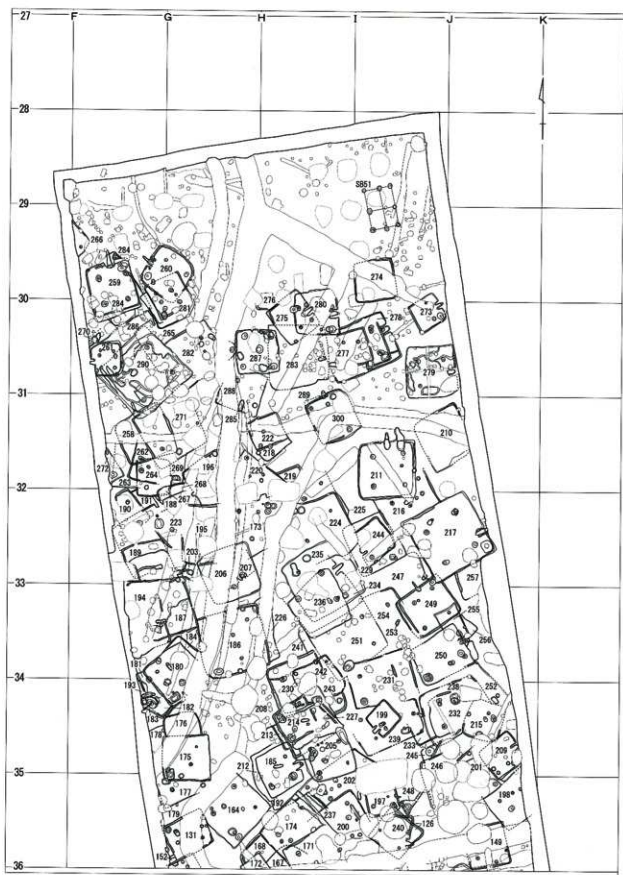
床面は貼床されており、南東側はその貼床が途切れたラインで立ち上がると判断した。

カマドは北西壁に設けられている。煙道の長さは160cm、燃焼部の大きさは50×45cm、掘り方までの深さは20cm、火床面(11層上面)までの深さは6cmである。

貯蔵穴はカマドの右、北コーナーにあり、ビット(P9・P10)を埋め戻して設けられている。大きさは95×90cm、深さは45cmである。

壁溝は南西壁を除いて検出され、南東壁にも巡っていたことが断面から観察された。幅15～50cm、深さ6～12cmである。北東壁の壁溝は幅が広く、掘り込みも明瞭である。

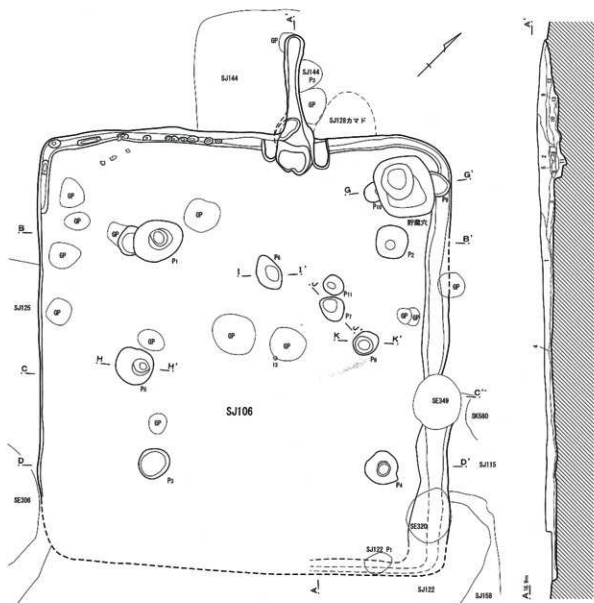
ビットは11基検出された。主柱穴はP1～4である。P5・6・8は柱痕の存在から、補助的な柱穴と考えられる。P9・10は貯蔵穴構築前のビットである。



第14圖 竪穴住居跡・掘立柱建物跡全体圖 (I)



第15図 竪穴住居跡・掘立柱建物跡全体図(2)



第16図 第106号住居跡 (I)

ピットの深さはP1から順に55cm、70cm、65cm、68cm、74cm、50cm、16cm、21cm、45cm、20cm、22cmである。

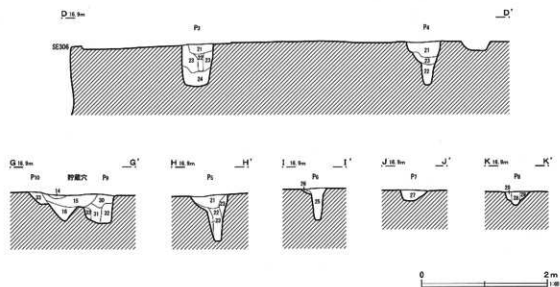
遺物は、埋土から破片が多く出土した。土師器・環・鉢・甕などがある。図示した遺物のうち、2点(第19図8・11)は出土状況からカマドの構築材として使用されていたものと考えられる。ほぼ中央の床面直上からは、紡錘車が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅱ期と考えられる。

第107号住居跡(第20図)

I-36・37グリッドに位置する。第132号住居跡に東壁の一部を切られている。第156号住居跡とも重複するが、埋土がともに浅く、切り合い関係を明らかにできなかった。

規模は東西3.9m、南北3.8m、南東隅がやや乱れるが、角丸方形となる住居跡である。上面は削平されており、確認面から5cmほど掘り下げると床面が

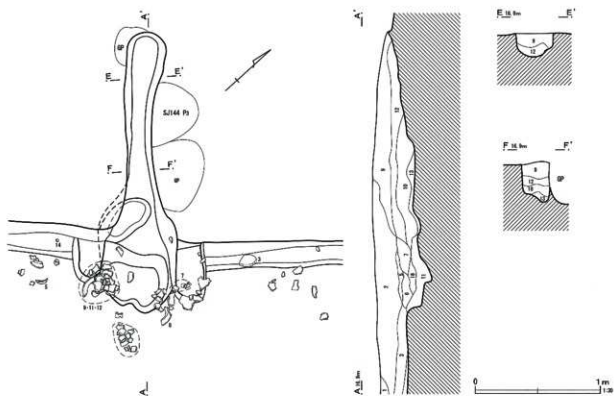


第106号住居跡

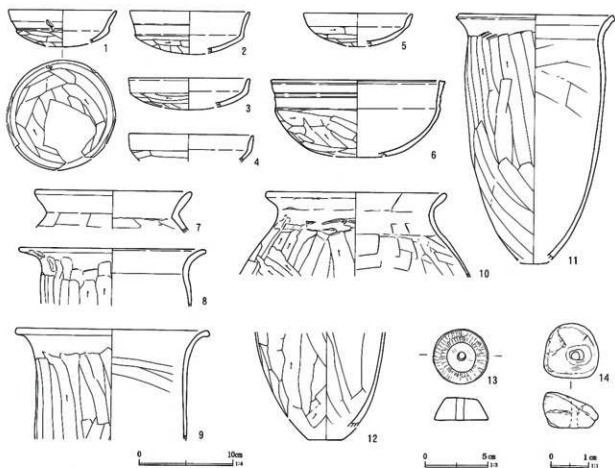
1 黒褐色土	10YK3/2	ローム砂子(φ1~3mm)少量	しまりあり 粘性ややあり
2 黒褐色土	7.5YK3/1	焼土ブロック(φ10~30mm)少量	炭化物(φ10~20mm)含む カマド周辺に散る焼土と炭化物を含む
3 に近い黄褐色土	10YR4/3	ローム砂子(φ1~8mm)少量	しまりあり 粘性ややあり
4 に近い黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック(φ10~50mm)少量	(粘附)しまりあり 粘性ややあり
カマド			
5 黒色土	7.5YK2/1	しまり・粘性なし	炭層
6 灰褐色土	10YR4/2	しまり・粘性ややあり	
7 灰褐色土	7.5YR4/2	しまり・粘性ややあり	上が大断面と
8 に近い褐色土	7.5YK5/4	しまりややあり	粘性ややあり
9 褐色土	7.5YR4/1	焼土ブロック(φ10~40mm)少量	しまりあり 粘性弱
10 褐色土	7.5YR4/1	しまり・粘性ややあり	上部に炭層をかぶっている
11 褐色土	10YR4/1	しまり・粘性ややあり	上部に炭層をかぶっている
12 黒褐色土	7.5YK3/1	焼土ブロック(φ10~40mm)少量	灰・炭化物を含む
13 黒褐色土	7.5YK3/1	灰を多く含む	しまり・粘性弱
野糞穴			
14 褐色土	10YR4/1	焼土ブロックを含む	しまりあり 粘性ややあり
15 黒褐色土	10YK3/1	炭化燐砂子(φ1~10mm)少量	しまりあり 粘性ややあり
16 褐色土	10YR4/1	焼土砂子(φ5~100mm)	炭化物少量 しまりややあり 粘性あり

ピット1~5			
17 黒褐色土	10YR4/1	ロームブロック(φ10~20mm)少量	しまりあり 粘性ややあり
18 褐色土	10YR4/1	しまり・粘性ややあり	
19 褐色土	10YR4/1	ロームブロック(φ10~50mm)少量	しまり・粘性あり
20 褐色土	7.5YR4/2	しまり・粘性あり	(柱の撤取り痕)
21 黒褐色土	7.5YK3/2	しまりあり	粘性弱
22 黒色土	7.5YK2/1	しまり弱	粘性あり
23 黒褐色土	7.5YK3/1	ロームブロック(φ10~30mm)少量	しまりあり 粘性弱
24 土層記載なし			
ピット6			
25 黒褐色土	7.5YK3/1	ロームブロック(φ10~20mm)少量	しまりあり 粘性ややあり
26 黒褐色土	7.5YK3/1	ロームブロック(φ10~30mm)少量	しまりややあり 粘性あり
ピット7			
27 黒褐色土	7.5YK3/1	ローム砂子(φ1~5mm)少量	しまり・粘性ややあり
ピット8			
28 黒褐色土	7.5YK3/1	ローム砂子(φ1~5mm)少量	しまり・粘性ややあり
29 黒褐色土	7.5YK3/1	しまり・粘性ややあり	
ピット9			
30 黒褐色土	7.5YK3/1	ロームブロック(φ10~20mm)少量	しまりあり 粘性ややあり
31 黒褐色土	7.5YK3/1	ロームブロック(φ10~30mm)少量	しまりあり 粘性ややあり
32 黒褐色土	10YK3/1	しまりあり	粘性ややあり
ピット10			
33 黒褐色土	7.5YK3/1	ロームブロック(φ10~30mm)少量	しまりあり 粘性ややあり

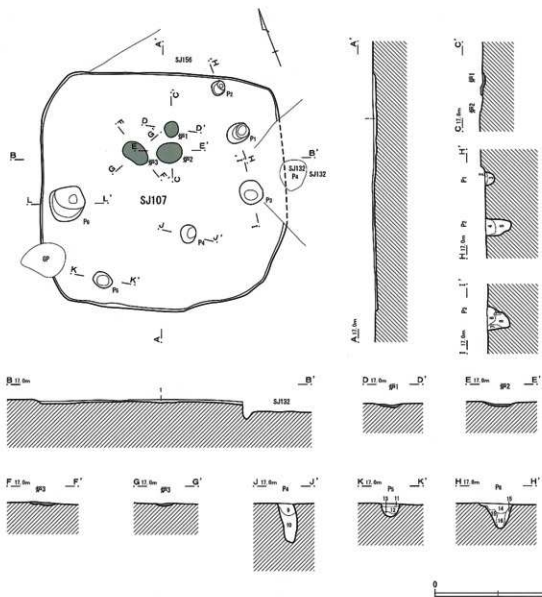
第17図 第106号住居跡(2)



第18図 第106号住居跡カマド



第19図 第106号住居跡出土遺物



第107号住居跡

1 黒褐色土	10YR3/1	黄褐色土ブロック (φ3~5mm) 多量 炭褐色土粒子 (φ1~2mm) 含む
ピット1		
2 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量
3 黒褐色土	10YR2/1	地山ブロック (φ1~10mm) を比較的多量 焼土ブロック (φ1~5mm) 少量
ピット2		
4 黒褐色土	2.5Y3/2	炭化物粒子少量 地山ブロック (φ1~15mm) 含む
5 暗オリーブ褐色土	2.5Y3/3	炭化物粒子・鉄分・マンガンを少量 地山ブロック (φ1~30mm) 含む
ピット3		
6 黒褐色土	2.5Y3/1	炭化物少量 地山ブロック (φ1~30mm) 含む
7 灰オリーブ色土	5Y6/2	地山ブロック多量 (崩落土)
8 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック多量 炭化物含む

ピット4		
9 褐色土	10YR4/1	地山ブロック (φ1~10mm) 多量 鉄分含む
10 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~5mm) 少量 鉄分含む 炭化物少量
ピット5		
11 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック・焼土少量
12 黒色土	5Y2/1	炭化物少量 地山ブロック (φ1~10mm) 含む
13 黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック多量 鉄分含む
ピット6		
14 黒褐色土	2.5Y3/1	地山ブロック (φ1~15mm) 含む 焼土ブロック少量 炭化物含む
15 黒褐色土	2.5Y3/2	地山ブロック多量 炭化物含む 崩落土小
16 黒褐色土	10YR3/1	地山ブロック (φ1~10mm) 少量 焼土少量 炭化物少量

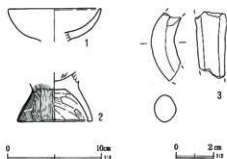
第20図 第107号住居跡

検出された。埋土は一層で、自然堆積と考えられる。主軸方向はN-20°-Eである。

炉は3基検出された。いずれも床面が直接熱を受けており、掘り込みはほとんど確認されなかった。

被熱範囲は、炉1が25×22cm、炉2は40×31cm、炉3は45×28cmである。

ピットは6基検出されたが、配置も不規則で、埋土からも明確に柱穴と判断できるものはない。ピット

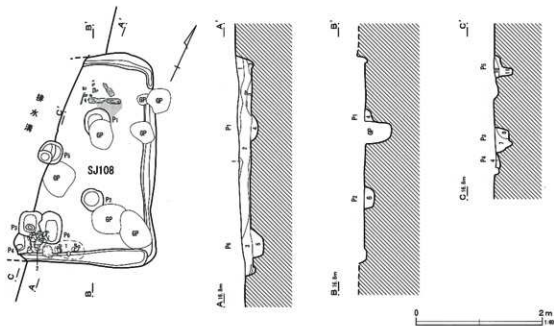


第21図 第107号住居跡出土遺物

トの深さはP1から順に15cm、40cm、35cm、61cm、20cm、39cmである。

遺物量は少なく、そのほとんどが小破片である。土師器高環・台付襷脚部を図示した。土器以外には土製勾玉の一部と考えられる土製品が出土している。

本住居跡の時期は古墳時代前期である。



第108号住居跡

- | | | | | |
|---------|----------|-----------------------|------------|---------------|
| 1 焼灰色土 | 10TR4/1 | ローム粒子 (φ2~5mm) 少量 | しまりあり | 粘性ややあり |
| 2 焼灰色土 | 7.5TR4/1 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | しまりあり | 粘性ややあり (埋め戻し) |
| 3 焼灰色土 | 10TR4/1 | | しまり弱い | 粘性あり |
| ピット1・2 | | | | |
| 4 焼灰色土 | 7.5TR4/1 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | しまりあり | 粘性ややあり |
| ピット6 | | | | |
| 5 焼灰色土 | 10TR4/1 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | | |
| ピット1・2 | | | | |
| 6 灰黄褐色土 | 10TR4/2 | ロームブロック (φ10mm)・炭化物少量 | しまり・粘性ややあり | |

- | | | | | |
|---------|---------|-------------------------|------------|--------|
| ピット3 | | | | |
| 7 焼灰色土 | 10TR4/1 | 柱礎のあたりを含む | しまりあり | 粘性ややあり |
| 8 黄褐色土 | 10TR3/1 | ロームブロック (φ5~10mm) 少量 | しまりあり | 粘性ややあり |
| ピット4 | | | | |
| 9 焼灰色土 | N3/0 | 灰層に焼土ブロック (φ3~6mm) 少量混入 | しまり | 粘性なし |
| ピット5 | | | | |
| 10 焼灰色土 | 10TR4/1 | しまり・粘性ややあり | | |
| 11 焼灰色土 | 10TR4/1 | ロームブロック (φ10~30mm) 少量 | しまり・粘性ややあり | |

第22図 第108号住居跡

第108号住居跡 (第22図)

G-37グリッドに位置し、西半は調査区外にかかる。形状は方形、もしくは長方形と推定される。規模は南北3.4m、検出された東西の長さは2.2mである。確認面から床面までの深さは20cmである。埋土は自然堆積層 (3層) と埋め戻しとみられる層 (2層) が確認され、ある程度埋まった後に埋め戻され

たものと推定される。床面からやや浮いた高さ (2層の下面) に、炭化材の堆積が認められる。東辺の傾き方向はN-24°-Wである。

壁溝は検出された壁すべてに認められ、掘り込みはしっかりとしている。幅は10~30cm、深さは2~4cmである。

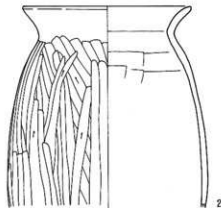
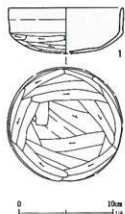
住居跡に伴うと考えられるピットは6基である。

その位置からP1・2は柱穴と考えられるが、柱痕は検出されなかった。P4の埋土には灰と焼土が含まれていた。その周辺に焼土の堆積は認められないため、P4がカマドに伴うものとは考えにくい。ピットの深さはP1から順に10cm、15cm、27cm、7cm、30cm、20

cmである。

出土遺物には土師器環・甕がある。P3・4付近から出土した。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第23図 第108号住居跡出土遺物

第109号住居跡 (第25図)

G・H-36グリッドに位置する。北側を第585号溝跡、南側を第586号溝跡に切られており、その間に検出された住居跡である。このほかにも第588・595号溝跡、第310・312・315・319号井戸跡と重複している。

に10cm、10cm、15cm、10cm、34cm、24cm、12cmである。また、P5と炉を結ぶように小さな浅い溝が検出された。長さ82cm、幅20cm、深さは4cmである。

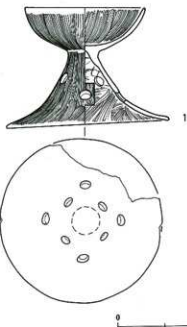
遺物は、埋土からおもに甕類の破片が出土した。

規模は、東西6.0m、検出された南北の長さは3.3mである。トレンチで埋土の大半は削られてしまったが、残りの埋土の堆積状況は、この住居跡が自然に埋没していった様子を示している。確認面から床面までの深さは35cmである。東西壁を基準にした傾きはN-13°-Wである。

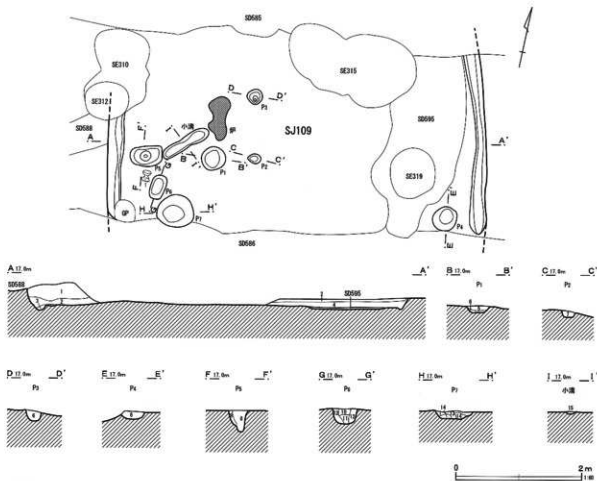
床面は比較的固くしかりとしており、両壁から壁溝が検出された。壁溝は幅16~26cm、深さ1~3cmである。

炉は検出面中央やや西よりにあり、床面に丸い被熱範囲が2つ連なって検出された。掘り込みはほとんどない。被熱範囲は65×32cmである。

本住居跡に伴うと考えられるピットは7基である。柱痕が確認されたP5・6は柱穴と考えられるが、他のピットは不明である。ピットの深さはP1から順



第24図 第109号住居跡出土遺物



- 第109号住居跡
- | | | |
|---------|----------|---------------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | しまりあり 粘性ややあり |
| 2 黒褐色土 | 7.5YR3/2 | ローム土多量 焼土粒子(φ1~3mm) やや含む しまりあり 粘性ややあり |
| 3 褐色土 | 10YR4/1 | しまりややあり 粘性あり (埋蔵層上) |
| 4 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム粒子(φ1~3mm) 少量 しまり・粘性ややあり |
- ピット1~4
- | | | |
|--------|----------|--------------------------------------|
| 5 黒褐色土 | 7.5YR3/1 | しまりあり 粘性ややあり |
| 6 黒褐色土 | 7.5YR2/1 | ロームブロック(φ10~40mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり 埋土 |
| 7 黒褐色土 | 7.5YR2/1 | ローム粒子(φ1~3mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり |
- ピット5
- | | | |
|--------|---------|--------------------------------------|
| 8 黒褐色土 | 10YR3/1 | ロームブロック(φ10~30mm) 少量 しまり・粘性ややあり (柱床) |
| 9 黒褐色土 | 10YR3/1 | しまり・粘性ややあり |

- ピット6
- | | | |
|---------|---------|-----------------------------------|
| 10 黒褐色土 | 10YR3/1 | 焼土粒子(φ1~5mm) 少量 しまり・粘性ややあり |
| 11 黒褐色土 | 10YR2/1 | しまり・粘性ややあり |
| 12 黒褐色土 | 10YR3/1 | ロームブロック(φ10~20mm) 少量 しまりややあり 粘性あり |
- ピット7
- | | | |
|---------|---------|--|
| 13 黒褐色土 | 10YR3/1 | しまり弱 粘性あり |
| 14 黒褐色土 | 10YR3/2 | ロームブロック(φ10~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり (柱床) |
- 住居跡内小溝
- | | | |
|--------|---------|--------------------------------|
| 15 褐色土 | 10YR4/1 | ローム粒子(φ1~3mm) やや含むしまりあり 粘性ややあり |
|--------|---------|--------------------------------|

第25図 第109号住居跡

図示した高環は床面直上から出土したものである。

本住居跡の時期は下田町II期である。

第110号住居跡(第26図)

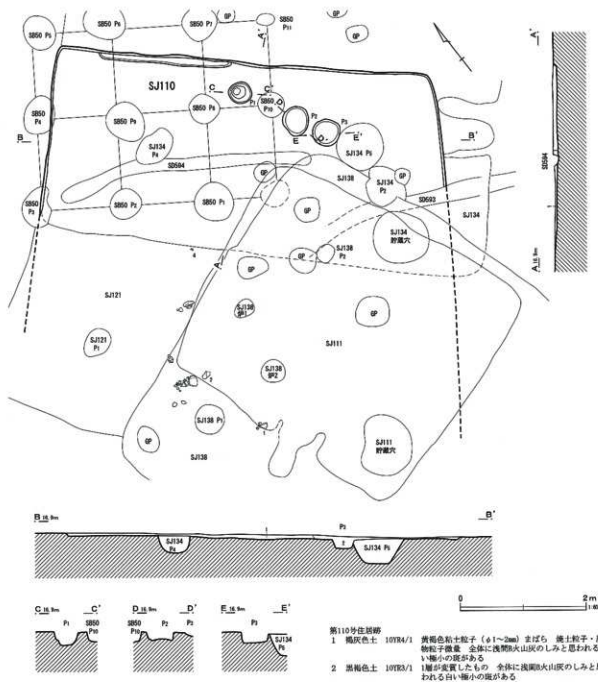
I-37グリッドに位置する。第111・121・134・138号住居跡、第593・594号溝跡、第50号掘立柱建物跡と重複する。切り合う住居跡のうちではもっとも新しい。

規模は東南-西北6.4m、南西-北東は2.7mまで

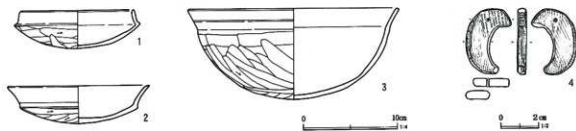
壁が確認されたが、埋土の残存範囲から、少なくとも6mは延びるものと推定される。確認面から床面までは、深いところでも7cmと浅い。北東壁を基準とした傾きはN-48°-Wである。

確認時にすでに床面まで削平されていたため、遺構の遺存状況は悪い。壁溝は北東壁の一部で確認された。幅12~18cm、深さは4~5cmである。

3基のピットがこの住居跡に伴うものと判断した。ピットの深さはP1から順に22cm、14cm、18cmで



第26図 第110号住居跡



第27図 第110号住居跡出土遺物

ある。

出土遺物は少なく、図示できたのは土師器環・鉢である。住居跡のほぼ中央から、勾玉形の石製製造品が出土している。

本住居跡の時期は下田町Ⅷ期である。

第111号住居跡 (第28図)

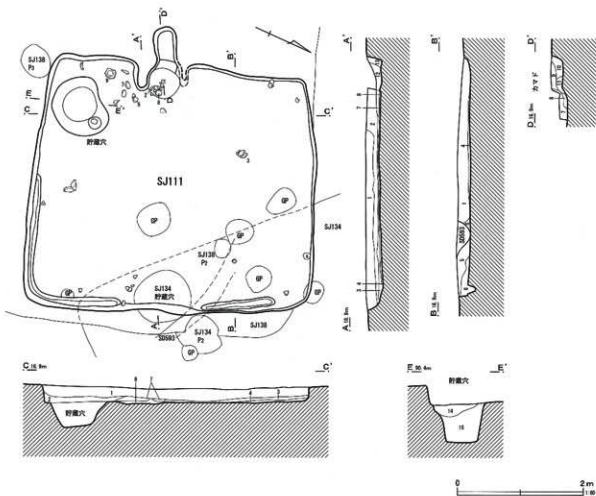
I-37・38グリッドに位置する。第110・121・134・138号住居跡と重複する。切り合い関係は第110号住居跡よりも古く、他の住居跡よりは新しい。第50号

掘立柱建物跡、第593号溝跡に切られる。

平面形は方形で、規模は東西4.0m、南北4.6mである。確認面から床面の深さは25cmである。埋土の状況から短時間に埋没したものと考えられる。主軸方向はN-62°-Eである。

床面には、部分的にはあるが少なくとも2面の貼床が確認され、床面には炭化物の薄い堆積が認められた。

カマドは、煙道の長さ60cm、燃焼部は50×45cmで掘り込みはほとんど認められない。軸は黄褐色粘土



第111号住居跡

- | | | | | |
|---------|---------|----------------------------|------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色土 | 10YR3/2 | 炭化物粒子少量 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) まばら | 焼土粒子含む |
| 2 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm)・炭化物粒子少量 | 壁土粒子含む | 1.2~9mm |
| 3 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ10mm) 少量 | 炭化物 | |
| 4 褐色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 少量 | 炭化物粒子多量 | 薄い炭化物層が全体に広がる (貼床) |
| 5 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 粘土ブロック (φ1~2mm) 微量 | | |
| 6 褐色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 少量 | | |

カマド

- | | | | |
|----------|---------|----------------------------|---------------------------|
| 7 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 | 灰層 |
| 8 黒褐色土 | 10YR3/1 | 粘土ブロック (φ3~5mm) 少量 | 灰層 |
| 9 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 微量 | |
| 10 灰黄色土 | 10YR4/2 | 黄灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 中~多量 | |
| 11 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ30~50mm) 多量 | (埋戻し) |
| 12 褐色土 | 10YR5/1 | 黄灰色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 | 粘土ブロック (φ2~3mm) 少量 (カマド軸) |
| 13 褐色土 | 10YR4/1 | 黄灰色粘土ブロック (φ5~8mm) 多量 | (カマド軸) |
| 14 黒褐色土 | 10YR3/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ30~50mm) 少量 | |
| 15 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ30~50mm) 全体を含む | (埋戻し) |

第28図 第111号住居跡

を貼りつけて構築されている。袖の内面はよく焼けているが、煙道部はほとんど被熱していない。

貯蔵穴はカマドの左側、南東隅に設けられている。掘り込みは急でしっかりとしている。規模は95×80cm、深さは60cmである。

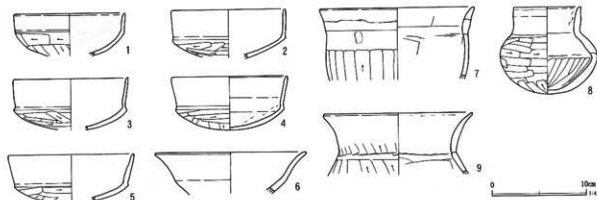
壁溝は東壁と南壁の一部で検出された。幅8～15cm、深さ7～12cmである。

本住居跡に伴うと考えられるピットは検出されなかった。

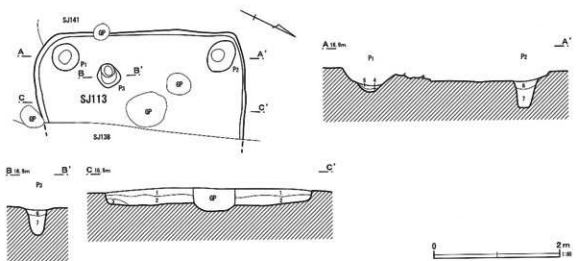
遺物は、カマド周辺から多く出土している。土師器環・壺・甕などがある。

本住居跡の時期は下田町V期である。

第112号住居跡 欠番



第29図 第111号住居跡出土遺物



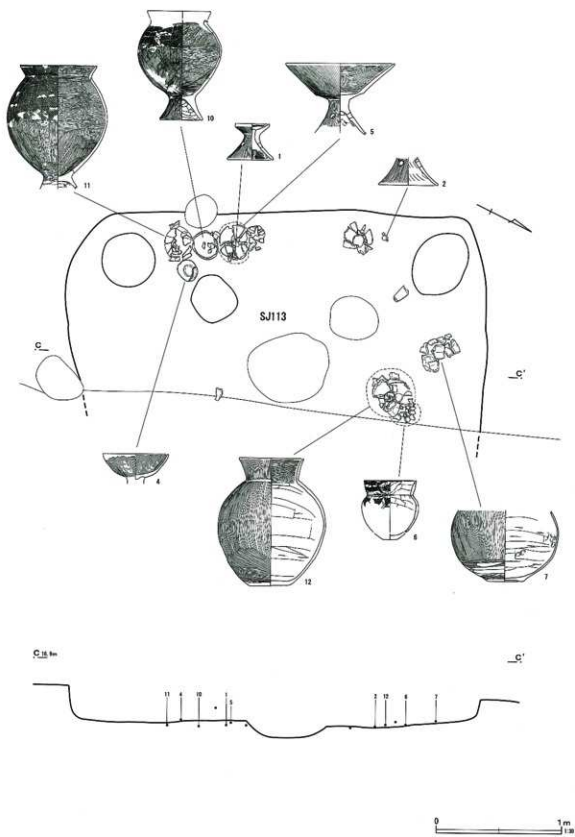
第113号住居跡

- | | | |
|---------|---------|----------------------------|
| 1 粘灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ2~3mm) 多量 |
| 2 黄灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土粒子 (φ1~2mm) 少量 |
| 3 粘灰色土 | 10YR4/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子多量 |
| ピット1 | | |
| 4 粘灰色土 | 10YR3/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 全体にまばら |
| 5 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 |

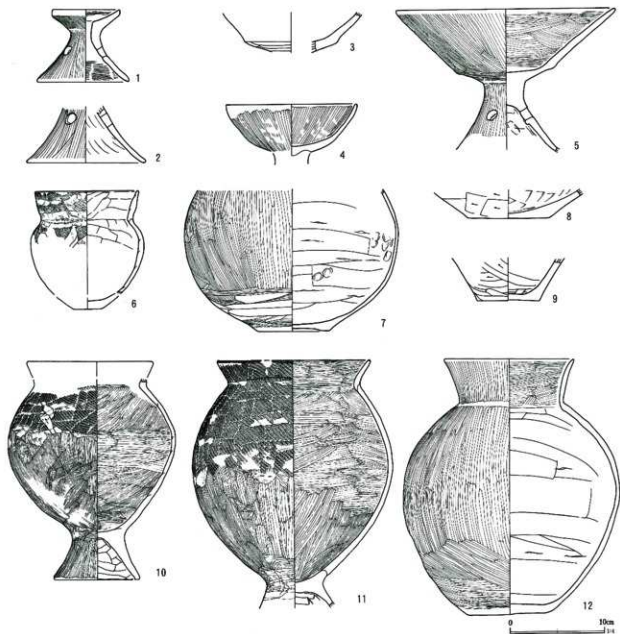
ピット2・3

- | | | |
|--------|---------|---------------------------------------|
| 6 黄褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm) まばら |
| 7 褐色土 | 10YR2/1 | 黄褐色粘土ブロック (φ3~5mm)・焼土ブロック (φ3~5mm) 少量 |

第30図 第113号住居跡



第31图 第113号住居跡遺物出土状況



第32図 第113号住居跡出土遺物

第113号住居跡 (第30・31図)

I-37・38グリッドに位置する。第141号住居跡を切って構築されており、東側は第138号住居跡によって切られている。

規模は南北3.3mと小さく、東西は1.7mまで検出された。確認面から床面までの深さは27cmである。埋土にはブロックが多く含まれており、短期間で埋没したか、埋め戻された形跡がある。西壁を基準とした傾きはN-25°-Wである。

床面には炭化物の薄い堆積が一面に認められる。この住居跡に伴うピットは3基検出された。ピットの深さはP1から順に15cm、42cm、42cmである。柱痕は確認されなかった。ピット以外の施設は検出されていない。

検出された面積は狭いが、出土遺物が多い。とくに床面直上からは個体ごとにまとめて出土した。土師器高坏・器台・壺・台付甕などがある。

本住居跡の時期は下田町1期である。

第114号住居跡 (第33・34図)

H・G-36・37グリッドに位置する。第142・144号住居跡と重複し、切り合い関係は、埋土の残りが乏しいためよくわからなかった。北東側は第584・586号溝跡によって切られている。第575・576・582・583・584号土坑、および多数のピットが埋没後に構築されている。

形状は長方形を呈し、規模は南西-北東5.4mである。第584・586号溝跡の反対側には確認できないので、東南-西北は6.5mほどになると推定される。埋土の残りは薄く、もっとも深い場所でも8cmしかない。主軸方向はN-51°-Wである。

床面はしっかりしており、直上で薄い灰層が確認された。

カマドの燃焼面は住居のやや内側に入り込んでお

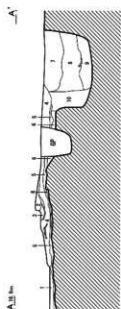
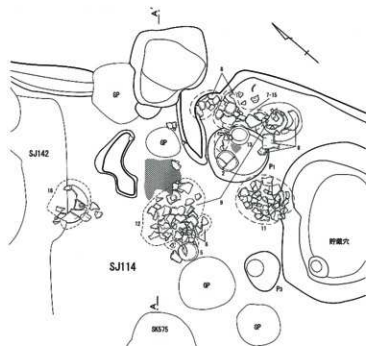
り、両側に貼り付けた袖の基部が検出された。燃焼部の掘り込みは浅く、煙道も短い。煙道にあたる部分には掘り方と考えられるピット状の掘り込みが確認された。

貯蔵穴はカマドの右側に設けられている。バケツ状の掘り込みで、規模は126×98cm、深さは40cmである。

壁溝は北東・南東壁の一部で検出され、幅は14～28cm、深さは3～6cmと浅い。

この住居跡に伴うと考えられるピットは6基である。このうち、位置や掘り込みの深さから、P2～5が柱穴と考えられるが、柱痕は確認されなかった。ピットの深さはP1から順に15cm、32cm、44cm、32cm、32cm、13cmである。

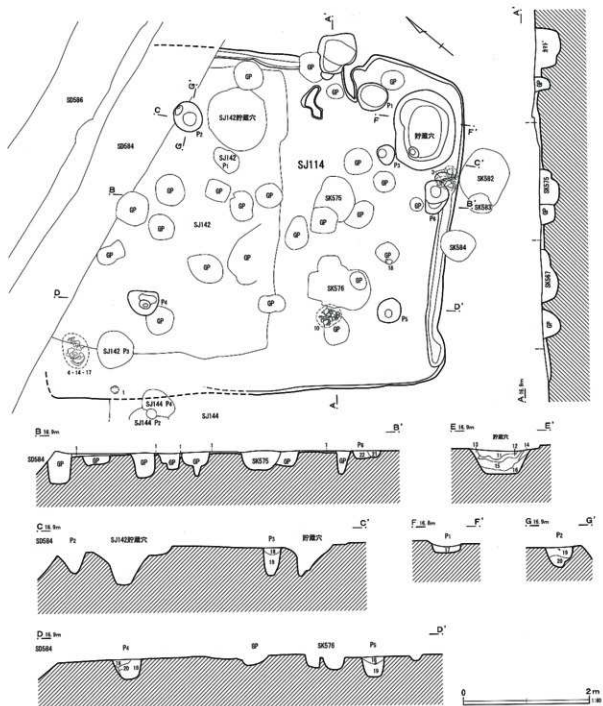
遺物は床面の直上、とくにカマドの周辺から出土



第114号住居跡	カマド		
2 黒褐色土	10YR3/2	しまりあり	粘性ややあり
3 黒褐色土	10YR3/2	しまりあり	粘性ややあり
4 灰黄褐色土	10YR4/2	しまりあり	粘性ややあり
5 黒褐色土	7.5YR2/1	しまりあり	粘性ややあり
6 黄褐色土	2.5Y7/3	しまりあり	粘性ややあり
7 黒褐色土	5YR2/1	しまりあり	粘性ややあり
8 黒褐色土	7.5YR3/1	しまりあり	粘性ややあり
9 黒褐色土	10YR3/1	しまりあり	粘性ややあり
10 黒褐色土	7.5YR3/1	しまりあり	粘性ややあり



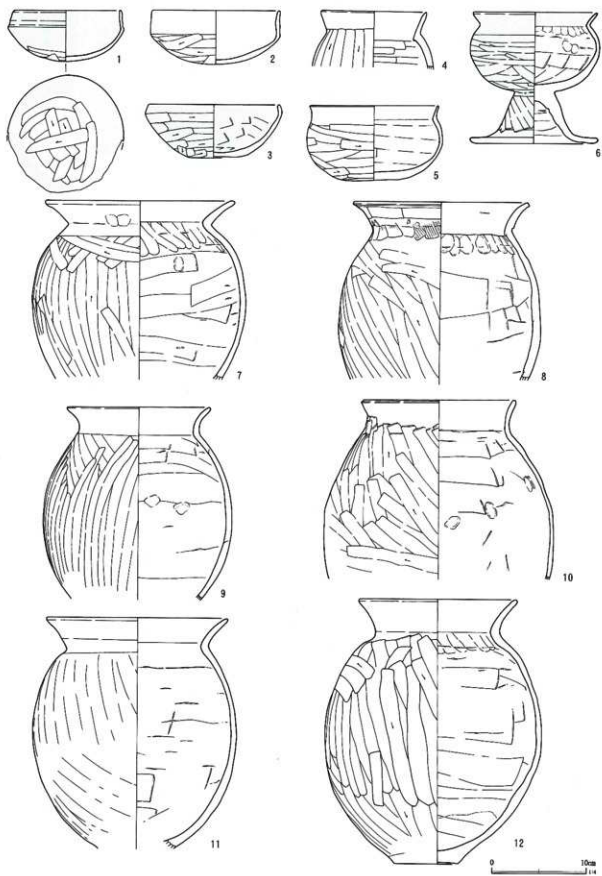
第33図 第114号住居跡カマド



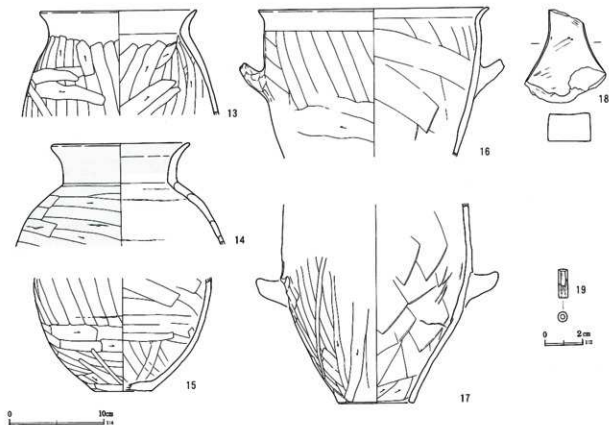
第114号住居跡

1 黒褐色土	10YR3/1	ローム粒子 (φ1mm~5mm) 含む しまりあり 粘性ややあり	ピット1	7.5YR1.7/1	焼土粒子 (φ10mm~30mm) 少量 灰多量 しまりあり 粘性なし
2 黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量 しまりあり 粘性あり 柱礎層上と同じょうな土	ピット2~5	7.5YR2/1	ローム粒子 (φ1mm~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
3 黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり	6 黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり
4 黒褐色土	10YR3/1	しまり・粘性ややあり	7 黒褐色土	10YR3/1	しまり・粘性ややあり 混じりけのない褐色土
5 黒褐色土	10YR3/1	焼土粒子 (φ1mm~5mm) 少量 しまりあり 粘性強い	8 黒褐色土	10YR3/1	ピット6
6 黒褐色土	10YR3/2	ローム粒子 (φ1mm~5mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり	9 黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり (柱礎層上)
7 黒褐色土	10YR4/1	しまり弱 粘性ややあり	10 黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック (φ10mm~30mm) 少量 しまりあり 粘性ややあり (掘り方の一部)
			11 明褐色土	7.5YR1.7/1	
			12 黒褐色土	7.5YR2/1	
			13 黒褐色土	10YR3/1	
			14 黒褐色土	10YR3/1	
			15 黒褐色土	10YR3/1	
			16 黒褐色土	10YR3/1	
			17 黒褐色土	10YR3/1	
			18 黒褐色土	10YR3/1	
			19 黒褐色土	10YR3/1	
			20 黒褐色土	10YR3/1	
			21 黒褐色土	10YR3/1	
			22 黒褐色土	10YR3/1	

第34図 第114号住居跡



第35图 第114号住居跡出土遺物 (1)



第36図 第114号住居跡出土遺物(2)

しており、接合率も高い。土師器環・台付壺・甕・甔などのほかに、砥石や管玉も出土している。

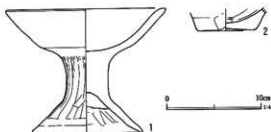
本住居跡の時期は下田町V期である。

第115号住居跡(第38図)

H-37グリッドに位置する。第106・117・122・158・159号住居跡、第578・579・580・581号土坑、第320・349号井戸跡と重複する。調査時においては、第106・117号住居跡に切られていることが確認されたが、他の住居跡との切り合い関係は把握できなかった。

方形の住居跡で、規模は南北4.4m、東西は3.8mまで確認された。確認面が床面直上にまで達しているため、埋土の残りは浅く、床面までの深さは8cmである。部分的に貼床まで削平されている。北壁を東西の基準とした傾きはN-30°-Wである。

壁溝は検出された壁すべてに設けられ、幅は12~

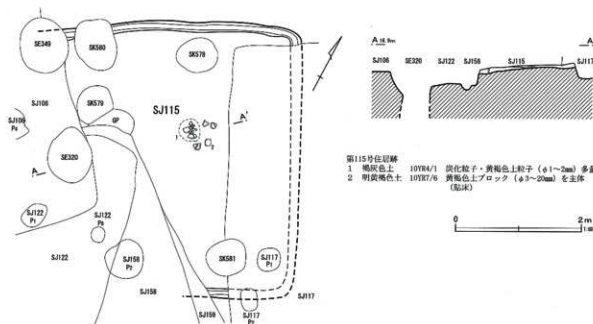


第37図 第115号住居跡出土遺物

14cm、深さ3~10cmである。壁溝以外の施設は検出されていない。

遺物は、中央付近から形になるものが出土している。土師器高環などがある。

本住居跡の時期は下田町IV期である。



第38図 第115号住居跡

第116号住居跡 (第39・40図)

H・I-36・37グリッドに位置する。第117・118・119号住居跡と重複する。切り合い関係は、第117号住居跡よりも古く、第119号住居跡よりも新しい。第118号住居跡との切り合い関係は、調査時には把握できなかったが、それよりも新しいと推定される。

規模は、東西5.7m、南北は5.8m以内になり、正方形に近い形状となるものと考えられる。カマド以外の埋土は観察できなかった。確認面から床面までの深さは15cmである。主軸方向はN-27°-Wである。

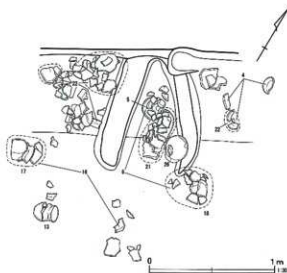
カマドは北壁やや東寄りに設けられている。燃焼部の掘り込みはほとんどなく、その範囲はおおよそ90×50cmである。底面は被熱し、灰層(3層)の上に天井崩落土が堆積する。ほぼ中心に高環を伏せて支脚に転用している。袖は粘土で構築された付け袖である。

貯蔵穴は2基検出された。1はカマドの右、北東隅に設けられている。バケツ状に掘り込まれ、底は平坦となる。規模は70×65cm、深さは30cmである。2は南東隅にあたり、形状は方形に近い。規模は98×65cm、深さは55cmである。

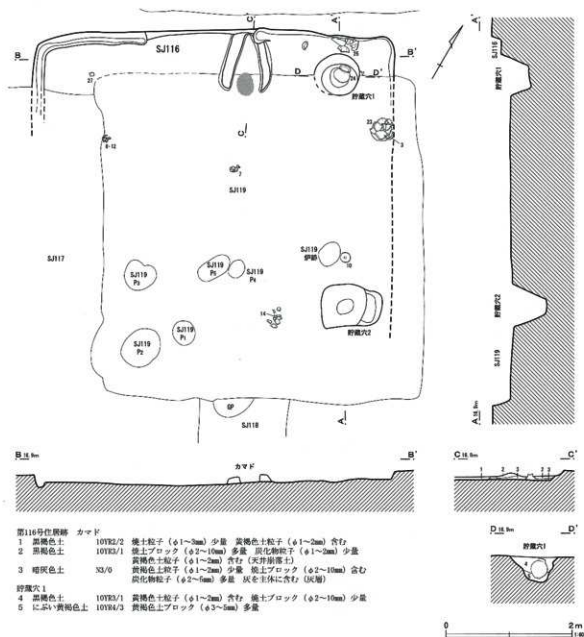
壁溝は北西隅で検出された。幅16~20cm、深さ6~7cmである。

出土遺物は多く、須恵器蓋、土師器環・高環・壺・甕・瓶などその種類も豊富である。カマドとその周辺から集中的に出土している。また、貯蔵穴1からは、完形の甕が据え置かれたように出土している。

本住居跡の時期は下田町V期である。



第39図 第116号住居跡カマド



第40図 第116号住居跡

第117号住居跡 (第43図)

H・I-37グリッドに位置する。第115・116・118・119・159号住居跡と重複する。切り合う住居跡の中ではもっとも新しいと考えられる。

形状は東壁が長く、台形に近い方形で、規模は東西4.7m、南北6.4mである。埋土は自然堆積と考えられ、確認面から床面までの深さは18cmである。西壁を基準とした傾きはN-28°-Wである。

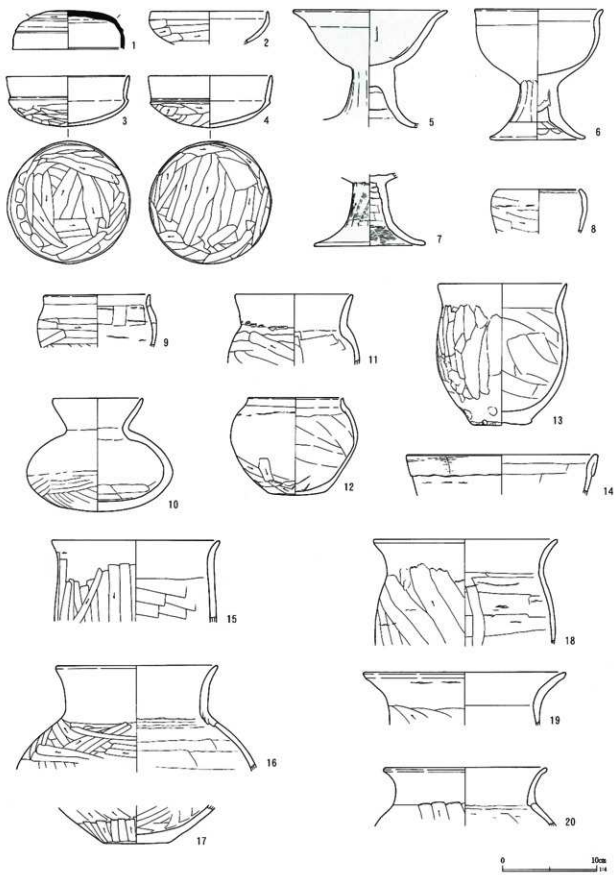
壁溝は南側に検出され、南壁のやや内側を巡って

いる。幅15~30cm、深さ3~10cmである。

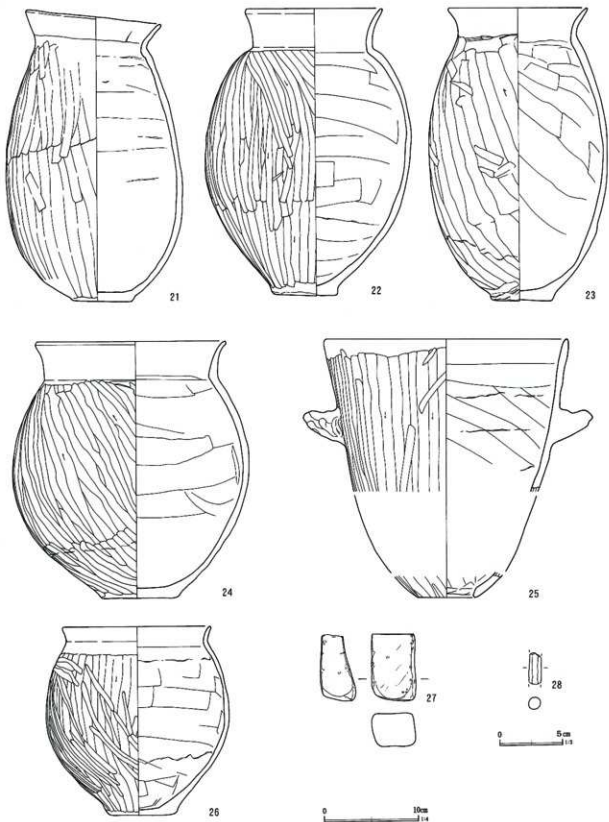
ピットは7基検出された。なかには深く掘り込まれているものもあるが、柱穴である確証はない。ピットの深さはP1から順に16cm、20cm、18cm、6cm、40cm、25cm、20cmである。

出土遺物は破片が多く、図示できたものは少ない。須恵器蓋、土師器坏などがある。

本住居跡の時期は下田町Ⅺ期である。



第41图 第116号住居跡出土遺物 (I)



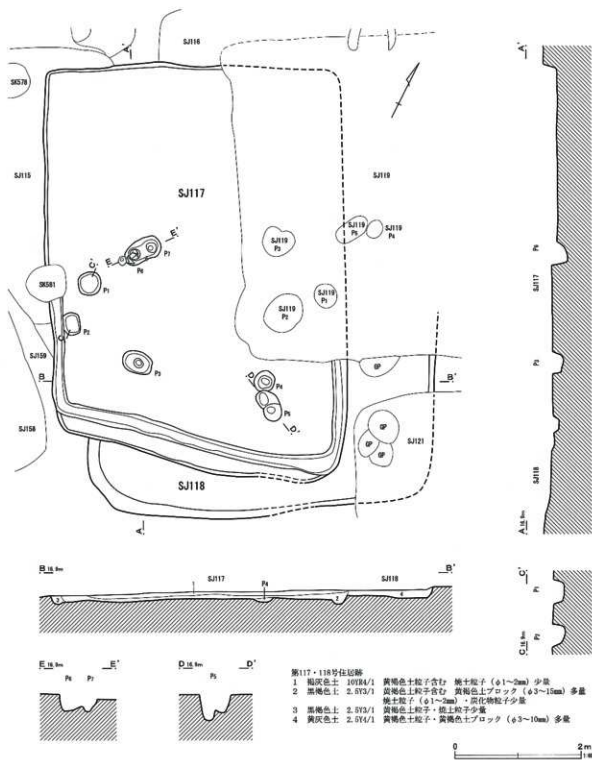
第42图 第116号住居跡出土遺物(2)

第118号住居跡 (第43図)

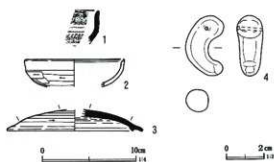
H・I-37グリッドに位置する。第116・117・119・121・141・159号住居跡と重複する。調査時には、第117・121号住居跡に切られていることが判明した。

他の住居跡との切り合い関係は把握できなかった。

確認できた範囲は狭く、規模は東西が推定で5.5m、南北は2.3mまで検出した。確認面から床面までの深さは12cm、埋土は一層である。東壁を基準とし



第43図 第117・118号住居跡

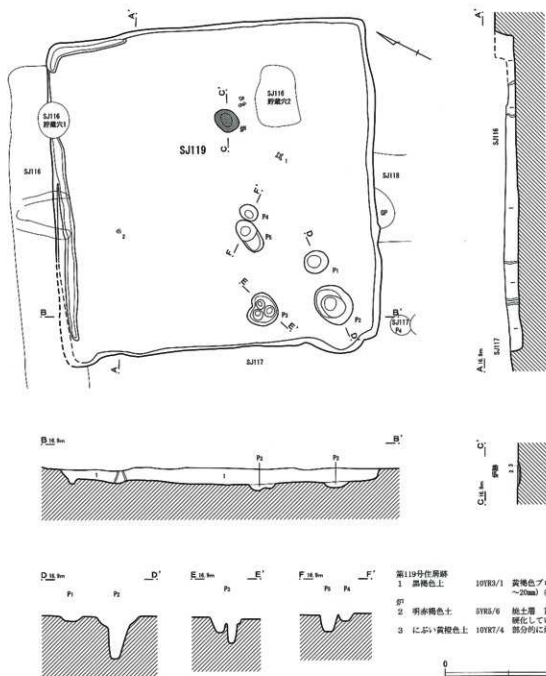


第44図 第117号住居跡出土遺物

た傾きはN-28°-Wである。

確実にこの住居跡に伴う遺物は少なく、図示できるものはない。

五領期の土師器の破片が出土していることから、本住居跡の時期は古墳時代前期に属する可能性がある。



第45図 第119号住居跡

第119号住居跡

- | | | | |
|---|---------|---------|-----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色ブロック (φ6 ~20mm) 多量 |
| 2 | 明赤褐色土 | 5YR5/6 | 粘土層 黄褐色粘土が硬化している |
| 3 | にぶい黄褐色土 | 10YR7/4 | 部分的に黄土化する |